

昭和四十九年五月

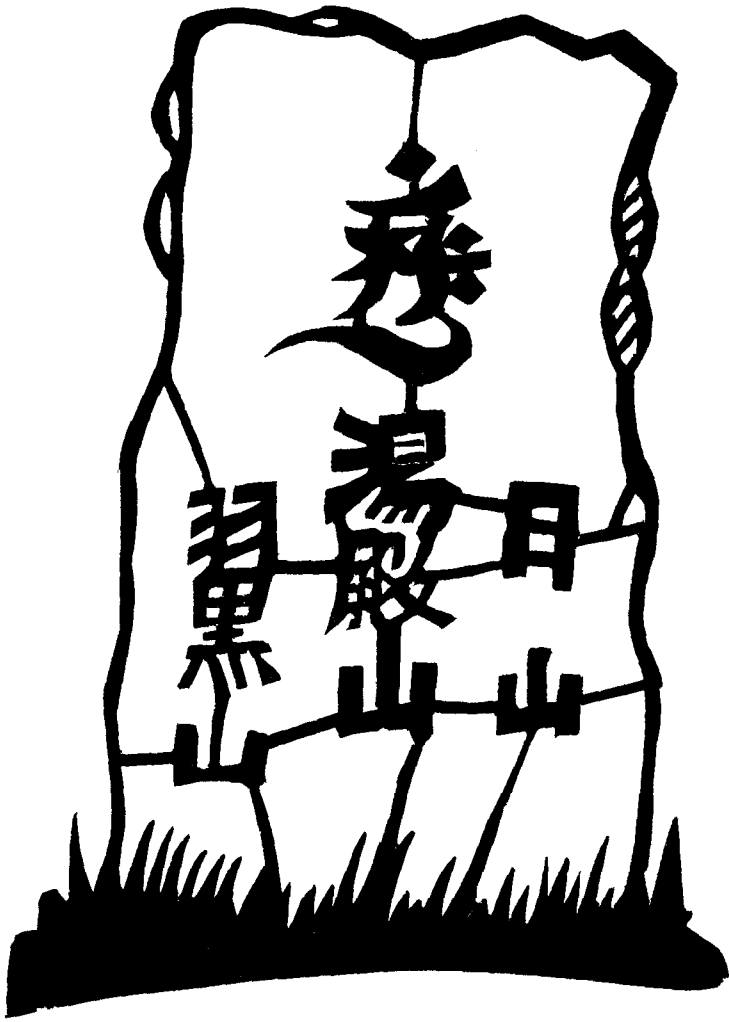
大館市史編さん調査資料

第十二集

石造紀年物調査報告書

大館市史編さん委員会





石造紀年物調査報告書

調査報告者

小山純夫

目次

表紙カバー（本文165の二ツ山紀年碑の拓影）

例言

1.	長木川以北地区	1	1
2.	大館市内地区	51	15
3.	十二所地区	185	51
4.	二井田地区	228	62
考 察	270	72
A	板碑について	72
B	民間信仰碑について	72
C	総括	82
参 考 文 献	83
後 記	83

1 調査に至った経過については、雑誌「火内」の創刊号で述べたが、昭和四十六年秋頃より調査した資料の集大成である。

2 この調査資料集は、分布調査に重点を置いたものであり、詳しい考察を含まないことを、予め断わっておく。

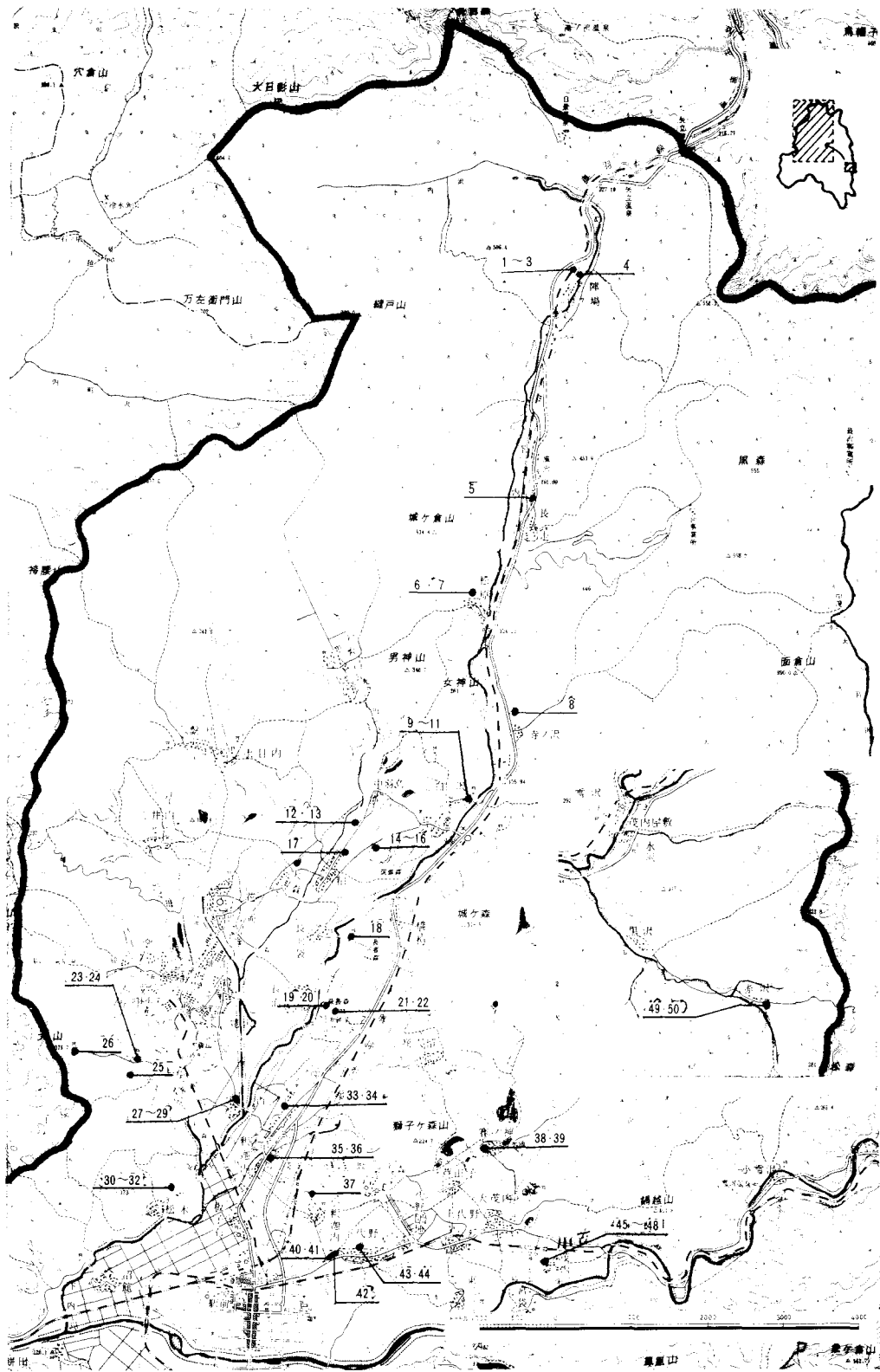
3 調査範囲は大館市全域で、一般記念碑は、この度の調査から除いた。また、造形は明治以前に限定したが、参考資料となるものは、一部取り入れた。

4 碑面にある「異体・旧体」文字については、そのまま書いたものもあり、衆知のものについては現行文字にした。また、古いものは草書体が多く、その解読については、調査者の観念読みが伴ったことは否めない。

5 本文中にある□印は、文字があっても判読できない場合で、□印の中に文字が入っている場合は、調査者の推定判読である。また、――は、文字が欠落（碑面の破損）している場合である。

6 石質については、調査者が調べたのであるが、県北は、帯が鉾山地帯であるため、岩石に変質が見られ、誤った判別もあるものと思われる。

7 それぞれの碑について写真撮影をしているが、紙面の関係で、その一部については省略する。また、写真目次、図譜目次についても省略させていただく。



第 1 図 長木川以北地区 1~50

大館市陣場字陣場台

1

1 凝灰質、板状割石。高さ一七〇cm、巾七五cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。〔図版一〕

〔正面〕 太平山

〔備考〕

〔鉄道の敷設により現在地に移転という。〕

2 輝石安山岩、自然石。高さ一一五cm、巾六四cm。

昭和三十一年。信仰碑。陰刻。〔図版一〕

〔正面〕

南無妙法蓮華經

秀顕書

花 画 ス エ	木 村 ツ マ	阿 部 ヨ シ
花 画 ナ ツ エ	三 浦 フ カ	小 畑 キ ヨ ノ
花 画 キ エ	橋 本 ツ カ	工 藤 孫 八
新 沢 マ ツ エ	三 谷 ツ カ	佐 々 木 裕 子
相 馬 弥 吉		
相 馬 丑 太 郎		

3 自然石。高さ七〇cm、巾八〇cm。造形—金精様。

〔備考〕

〔1、3は毎月八日が講の日という。〕

2

4 流紋岩、自然石。高さ八二cm、巾四五cm。
昭和七年。信仰碑。陰刻。

日輪

〔正面〕 二十三夜

月輪

〔左側〕

昭和七年旧八月一日
村中

大館市長走

1

5 流紋岩、自然石。高さ一四七cm、巾六〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。〔図版一〕

〔北側旧道端〕

〔正面〕 庚申塔

大館市松原

1 〔山神社境内〕

6 流紋岩、自然石。高さ九一cm、巾四五cm。

年号なし。信仰碑。

〔正面〕 八幡社

7 流紋岩、割石。高さ一三〇cm、巾六〇cm。
昭和十四年。信仰碑。陰刻。

昭和十四年旧七月

〔正面〕 大平山

大館市寺ノ沢

8 流紋岩、割石。高さ一二五cm、巾四八cm。
明治四十二年。信仰碑。陰刻。〔図版一〕

〔正面〕 二十三夜

〔左側〕

明治四十二年建立
旧三月十日 若松子之吉建立

大館市白沢

1 〔九僧堂山下〕

9 流紋岩、割石。高さ一二七cm、巾八四cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 日輪 三吉

10 流紋岩、球状割石。高さ一二〇cm、巾一二〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。〔図版一〕

〔正面〕 庚申塔

11 流紋岩、柱状割石。高さ二八〇cm、巾二二〇cm。
元治元年。信仰碑。陰刻。〔図版二〕

日輪 元治元年

〔正面〕 二十三夜

月輪 甲子吉日

大館市粕田

1 〔粕田・中羽立間〕

〔左側碑〕 猿田彦

大館市釈迦内字福館

1 (稲荷神社前)

18 砂岩質、割石。高さ八九cm、巾六五cm。
天保三年。信仰碑。陰刻。 (図版二)

天保三年

〔正面〕 庚申塔

壬辰十一月十八日願主講中

〔備考〕

(釈迦内から白沢に至る旧道沿にあり、付近には所在未確認ながら、冷水の一里塚があったといわれ、長面袋の佐々木治三郎氏のお話によれば、杉苗畑下の湧水のことをいうそうだ。)

大館市釈迦内萩長森

1 (萩長森西側麓)

19 流紋岩、割石。高さ一二〇cm、巾四五cm。
明治四十二年。信仰碑。陰刻。 (図版二)

〔右側下〕

〔正面〕 猿田彦大神

己酉一月三日

明治四十一年

〔左側下〕

渡部 久太郎
高谷 宗之助
貝森 源助

高谷 由松
渡部 作太郎
渡部 西松
徳松

長面村
發起人

佐々木 伊助
佐々木 徳松
高谷 勘七
金長 長之助

20 流紋岩、割石。高さ一八〇cm、巾五〇cm。
寛政九年。信仰碑。陰刻。 (図版二)

〔正面〕

アーンク 湯殿山供養塔

(梵字)

維時寛政九丁巳天

初秋七月八日

先達

成就院清整

本願主 スマダテ

長面村半四良 茂吉

同行 助三郎(一丁)

金兵衛利右エ門

伊タコイシ 弥右エ門 シャカナイ

傳 助 孫右エ門

マンミネ 又五良

石大工 与惣エ門

2 (萩長森山頂)

21 安山岩、造形。総高一五〇cm。明治四十一年。

〔祠内正面〕

太平山三吉神社

森吉山

〔祠左側〕

明治四十二年
旧七月十七日

〔台左側〕

伊藤 仙之助
高谷 伍三郎
渡部 岩三郎
清水 和吉
高谷 藤松
高谷 勤七

〔備考〕

(後にも先にも「森吉山」に関するものは、市内で唯一のものである。)

22

安山岩、角柱。高さ七一cm、巾二三cm×二〇cm。

明治四十二年。(21に伴う記念碑)

〔右側〕

明治四十二年七月十七日

〔正面〕

一金二円五十銭	高谷 五三郎	一円	渡部 兵吉
一金二円五十銭	清水 兵之助	一円	高谷 常吉
一金貳円	伊藤 仙之助	一円	金 長之助
一金貳円	渡部 金五郎	七十五銭	高谷 三三郎
一金壹円	高谷 藤松	五十銭	佐々木 徳松
一金壹円	高谷 平吉	全	高谷 清治
五十銭	渡部 子之吉	全	高谷 列吉
全	全 久助	全	常治
全	全 宗之助	全	仁三郎
全	全 常吉	全	佐々木 栄吉
一円	全 列一郎		

和 大館市松峰

1 (大山中)

23 安山岩、自然石。高さ一三四cm、巾八五cm。
明治七年。信仰碑。陰刻。〔図版二〕

〔右側〕 干時明和七年

〔梵字〕

〔正面〕

アーンク 湯殿山

願主

庚刀四月吉日

大藏院
田中 四郎兵衛
同 清四郎
同 四郎右衛門
同 助左エ門
日景 八右衛門
同 長太郎
同 茂兵衛
同 庄右衛門
立花村 石田
助 拾良

〔備考〕

(大藏院は修験寺で釈迦内にあったらしい。)

24

安山岩、自然石。高さ八五cm、巾六四cm。

安国七年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

ウーン 庚申

願主 壽院

〔備考〕

〔□〕寿院は、松峰にあった修験寺の、伝寿院のことと思われる。

2

(大山中貯水池)

25 流紋岩、割石。高さ五五cm。巾四〇cm。

年号なし。板碑。陰刻。(図版二)

(梵字)

(正面)

オン

(備考)

(貯水池の堤防工事の際に発見されたといわれており、年号はないが、平安初期のものと考えられる。三銘鈴も発見されており、信仰が古いと伝えられている山だけに、以外と古いものかも知れない。ただこの「オン」一字だけでは単独の意味を持たず、各種真言の頭につく種子で、例ば「オン・ア・ソワー・カー」……「大日如来真言」となる。このことから他の碑の存在も考えられる。)

(大山中神社境内)

26 花崗岩、造形。狛犬。宝曆三年。(図版二)

4

(松峯稻荷神社)

27 安山岩、自然石。高さ一九五cm。巾一四五cm。

文政五年。信仰碑。葉研彫(梵字)(図版二)

千時

文政五龍集壬天

(梵字)

八月大吉日辰

(正面)

サク

廿三

夜

28 流紋岩、自然石。高さ一九〇cm、巾一八五cm。

天保二年。信仰碑。葉研彫。(図版三)

千時
天保二年卯曆

(正面)

(梵字)
ウーン

馬頭大薩埵

五月吉且
郷中

29 流紋岩、割石。高さ一八五cm、巾五四cm。

享和二年。信仰碑。葉研彫。

(右側)

享和二年戊
四月日

粕田村 久太郎
石大工

(正面) 猿田彦大神 講中

願王 田中 三良兵衛

(裏面)

同 清四郎
同 五良兵衛
同 四郎右衛門

大館市松木

1 (神明社参道)

30 泥岩、自然石。高さ一一〇cm、巾六七cm。

安政二年。信仰碑。陰刻。

(右側)

安政二年
乙卯十月

講中

〔正面〕 廿三夜

31 流紋岩、割石。高さ一五五cm、巾五七cm。

安政二年。信仰碑。陰刻。〔図版三〕

〔右側〕 安政二年 講中

日輪

〔正面〕 庚申塔

月輪

〔左側〕 乙卯八月卅日郷中

32 流紋岩、割石。高さ一六〇cm、巾一六〇cm。

明治十八年。信仰碑。陰刻。〔社殿裏〕

〔正面〕 太平山

明治十八年

九月二十五日

信徒一村中

〔裏面〕

大館市釈迦内字山神台

1 (学校通り)

33 流紋岩、割石。高さ一一〇cm、巾六〇cm。

万延二年(文久元年)。信仰碑。陰刻。

日輪 万延二年

〔正面〕

サク (梵字)

月輪 辛酉三月

夜三廿

34 流紋岩、自然石。高さ九五cm、巾一一〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

講中

〔正面〕 庚申塔

2 (神明社境内)

35 集塊岩、自然石。高さ三二〇cm、巾八〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。〔図版三〕

〔正面〕 太平山

36 流紋岩、板状。高さ二二〇cm、巾六〇cm。

万延二年(文久元年)。信仰碑。陰刻。〔図版二〕

万延二酉三月

〔正面〕 象頭山

本願主 日景利助

願主 越前屋五右工門
石工 日景仁八
石工 半十良

願主

請五右工門

助左工門

金左工門

甚左工門

市八兵助

世話役 寺ノ沢

權四郎

石右工門

(備考) (象頭山とは金毘羅神社の山号であるので、その信仰と思われる。)

(左側) 願主 証

大館市小釈迦内

1 (釣堀の路横)

37 流紋岩、割石。高さ一一四cm、巾七〇cm。

明治二十三年。信仰碑。陰刻。

月輪

(正面) 猿田彦大神

日輪

明治二十三年

正月十二日

発起人

松本政吉

(裏面)

大館市才ノ神

1 (部落の西口)

38 流紋岩、自然石。高さ一八〇cm、巾七〇cm。

弘化二年。信仰碑。陰刻。

(右側)

弘化二年

日輪

月輪

庚

申

39 流紋岩、自然石。高さ一六〇cm、巾六七cm。

弘化二年。信仰碑。陰刻 (図版三)

弘化二年

(正面)

庚

申

(備考) (大きな機の下にあり38との間に締縄が張られている)

大館市下代野

1

40 流紋岩、割石。高さ一四〇cm。巾一二五cm。

昭和十年。信仰碑。陰刻。

昭和十年二月十三日

建立者

當村

(正面)

猿田彦大神

田中 市三郎
小笠原 米三郎
田中 萬之助

41 流紋岩、自然石。大正十一年。信仰碑。陰刻。

(正面)

庚

申

〔裏面〕

大正十一年
六月廿一日
石田 ヲク

42 花崗岩。高さ一四五cm、巾五〇cm。

元祿十七年。地藏。(墓地内にある) (図版三)

〔裏面〕

千時元祿十七年
五月吉祥日

〔備考〕

(玉林寺跡から移転されたというのは、この地藏のことか?)

2

(稻荷神社境内)

43 流紋岩、自然石。高さ一三五cm、巾四〇cm。

文久二年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

八幡太神宮

造主
石田

〔左側〕

文久二年
壬戌八月十五日

寄進

石田 助五郎
石田 助左エ門
石田 助□郎
石田 助八
田中 良四良

44 流紋岩、自然石。高さ一一〇cm、巾四〇cm。

明治九年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕

明治九年
子十一月九日

小笠原 彦十郎
石田 三四郎
石田 謙藏
(消している)

〔正面〕 太平山

石田 中 豊治
石田 田 助之丞
石田 中 嘉助
石田 中 利太郎
石田 田 永吉
石田 田 六之助

大館市小茂内

1

45 流紋岩、割石。高さ一二〇cm、巾八〇cm。

慶応元年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

日輪
(梵字)
ウーン

乙慶応
庚申

月輪

丑十月

〔備考〕

(下半分埋没しているが、慶応で乙の付く年は元年だけである。)

46 流紋岩、割石。高さ一三〇cm、巾六〇cm。

安政四年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

金毘羅大権現

願主當村
石垣 久四郎
万助
安政四年丁巳
八月十日

47 流紋岩、割石。高さ九〇cm、巾七五cm。

文化八年。信仰碑。陰刻。〔図版二〕

日輪 文化八年

〔正面〕 土君神

月輪 未七月

〔備考〕

（土公神）^{ドコサン}陰陽道で説く遊行神の一つで、春はカマド、夏は門、秋は井戸、冬は庭というように遊行するという。その期間に所在の土を犯すと祟りがあると伝える。
現在の民俗としては、陰陽師系統の民間宗教家の活躍した地方では、カマド神、火の神、田の神などが土公神とされている。
——日本民俗事典より

48 流紋岩、割石。高さ一〇〇cm、巾八〇cm。

明治□年。信仰碑。陰刻。

明治□年

〔正面〕 太平山

石	近藤
高	久四郎
近	升太郎
藤	力之助
寺	勇
坂	
高	
橋	
近	
藤	
高	
橋	

〔備考〕

（風化がひどく、拓本を取っても不明箇所がある。）

大館市雪沢字赤沢

1

（葛原・毛馬内への分岐点）

49 流紋岩、自然石。嘉水□年。信仰碑。陰刻。

嘉水□年

〔正面〕 金毘羅大権現

七月吉日

50 流紋岩、自然石。安水□年。信仰碑。陰刻。〔図版二〕

右葛原

安水□年

〔正面〕

（梵字）

アーンク

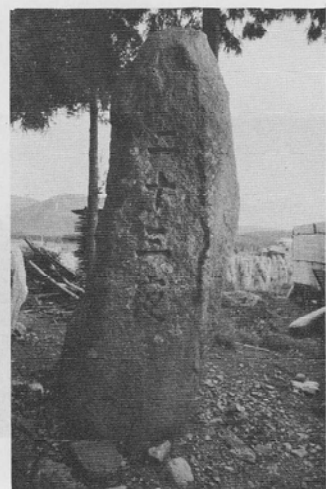
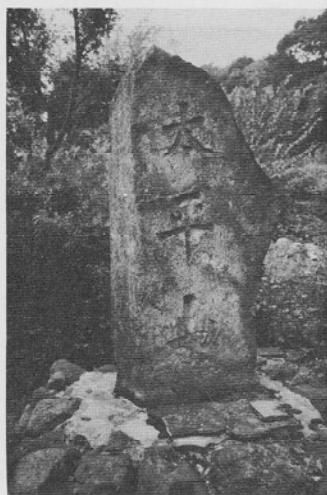
湯月山
羽殿山
黒山

午八月吉日

左毛馬内

〔備考〕

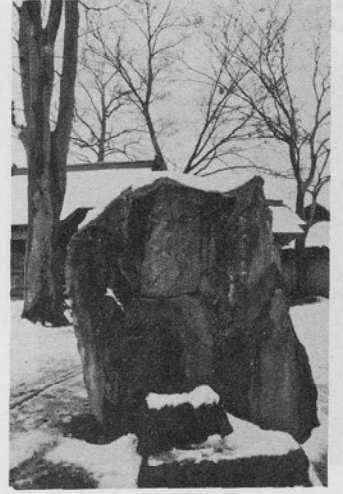
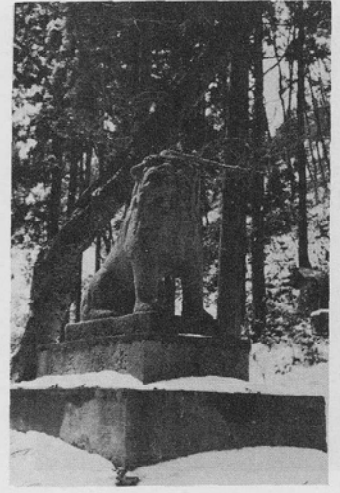
（この石碑は道標も兼ねており、十二所に「三哲道」という碑があるが、本格的な道標としては、市内では唯一であり、右の葛原道は現在の市のハイキングコースとなっているが、左の毛馬内方面は荒れているようだ。）



1	8	12
2	10	15
5	11	

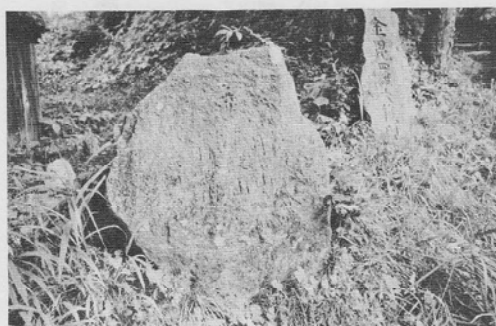
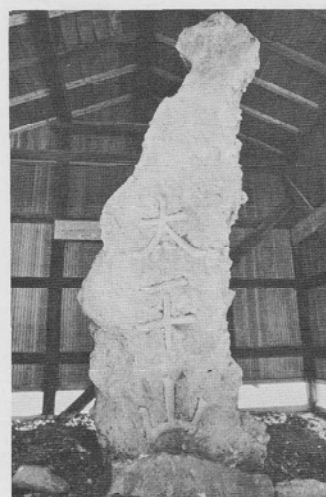
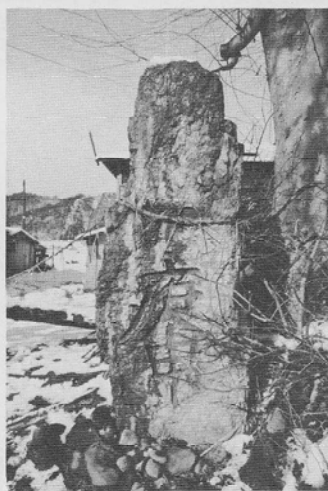
(数字は本文の通し番号)

図版 1



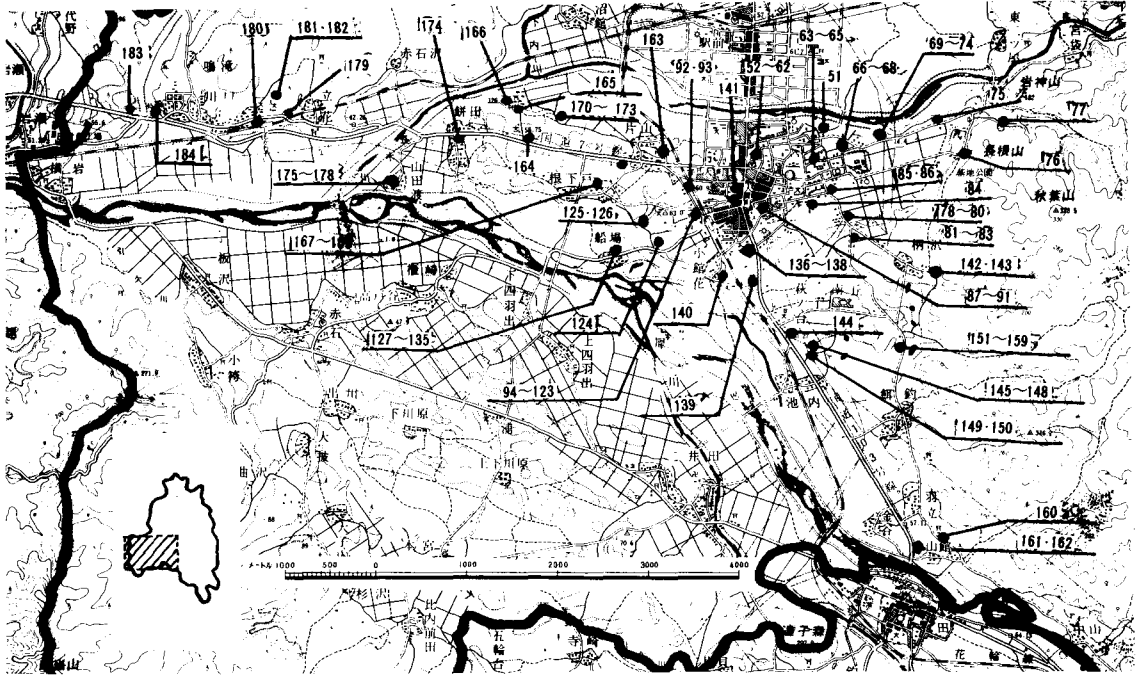
18	23	26
19	25	27
20	17	

図版 2



28	36	42
31	39	47
35	50	

図版 3



第 2 図 大館市内地区 51~184

市内通町

1

51 流紋岩、自然石。高さ一〇五 cm、巾六五 cm。年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 田代山霊神

市内長倉町

1

〔良風院跡〕

52 流紋岩、割石。高さ一一四 cm、巾一〇五 cm。寛政三年。句碑。薬研彫。〔図版四〕

〔正面〕 芭蕉翁

古池やかわ寿

とび古む水の音

〔裏面〕

寛政三年建立也
石田 吐友
明忠庵伍逸
粕田村
彫工久太良
辛亥十月十二日

53 粘板岩、板状。高さ五二 cm、巾二五 cm。

昭和八年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 弘法大師

〔裏面〕

昭和八年旧三月二十日建立
町内一同起發
菅原ヨシ
山城屋スエシ

大館市田町

2

(愛宕神社境内)

54 流紋岩、自然石。高さ八三cm、巾八〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

(梵字)
サク

廿三夜

55 流紋岩、割石。高さ一五五cm、巾一一〇cm。

明治三十五年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

太平山三吉大神

〔裏面〕

明治三十五年
壬寅七月十七日

敬白

田吉助 斎次郎 高瀬治 鈴木助 北野吉 越山吉 高橋元吉 高藤善吉 斎藤竹之助 石田寅五郎

56 流紋岩、自然石。高さ八〇cm、巾五〇cm。

明治十年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 二十三夜

〔裏面〕

明治十年
乙丑五月廿三日

57 流紋岩、割石。高さ一一六cm。巾七五cm。

明治二十六年(三十六年?)。信仰碑。陰刻。

〔右側〕

(卅)
明治廿六年旧四月田日

〔正面〕 太平山

〔裏面〕

近江白之助
佐々木辰五郎
佐々木辰五郎
佐藤三助
本田三助
斎藤吉

58 流紋岩、割石。高さ一三〇cm、巾四五cm。

弘化二年。信仰碑。陰刻。(図版四)

〔右側〕

祭主 波竜寺

〔正面〕

日輪 庚申
月輪

〔左側〕

弘化二乙巳 願主 古茂内 新太郎
四月廿日 同 川原町 吉五郎

田中清太郎
長崎萬藏
田中松
鳴田春松
田中春松

59 流紋岩、割石。高さ九三cm、巾一七cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。(図版四)

(正面) 庚 申

60 流紋岩、割石。高さ七五cm、巾三〇cm。
弘化四年。信仰碑。陰刻。(図版四)

(右側) 弘化四〇〇五月

(正面) (梵字) サク 二十三夜

61 流紋岩、自然石。高さ六五cm、巾七〇cm。
明治二十三年。信仰碑。陰刻。

(右側) 明治二十二年 旧六月吉日

(正面) 田代山

日高團治
大黒市太郎
佐々木駒藏

62 流紋岩、割石。(転倒のため詳細不明)

(正面) (梵字) ウーン 五 庚 申

(備考) (左側に講中らしい人名多数あるが、拓本を取っても判読しにくい。またこの他に同境内には、転倒して詳細不明の「山神社」講中だけ見える碑」と「日輪・月輪」を配した碑がある。)

大館市上町

1 (遍照院境内)

63 安山岩、石塔。大正六年。信仰碑。陰刻。

(右側) 大正六年六月廿五日

(正面) 奉立建宇賀大明神塔

(左側) 山内金藏建立

64 安山岩、石塔。高さ八八cm、巾一九cm。

大正六年。信仰碑。陰刻。(図版四)

(右側) 大正六年六月十六日

(正面) 馬頭観世音菩薩塔

(左側) 齊藤善九郎 建立

65 安山岩、石塔。高さ七三cm、巾二三cm。

昭和六年。信仰碑。陰刻。

(正面) 馬頭観世音塔

(左側) 昭和六年 山瀬村羽立 石井巳之丞立之

市内金坂

1 (八幡神社境内)

66 流紋岩、自然石。高さ一〇〇cm、巾六〇cm。

安政六年。信仰碑。陰刻。

(右側)

石田 三右エ門
椿ヤ 久右エ門
椿ヤ □太郎
石田 喜

(正面)

(梵字) (欠けている)
ウーン

庚申

(裏面)

高 越前ヤ
赤

(左側)

安政二二年 (丙)
己三月八日

講中 佐藤 八四郎
佐々木 □三郎

67 流紋岩、自然石。高さ六五cm、巾七〇cm。

万延元年。信仰碑。陰刻。

万延元年

(正面)

庚申

庚申一月一日

68 花崗岩、造形。狛犬。宝曆七年。

(左右共) 台座

宝曆七
丁丑天
十一月日

市内東台

1 (鳳鳴高校裏稻荷神社参道沿)

69 流紋岩、自然石。天保二年。信仰碑。薬研彫。(図版四)

(正面)

(梵字) アーンク

月山
湯殿山
羽黒山

(左側)

天保二
立

70 流紋岩、自然石。高さ一二七cm、巾五四cm。

文政五年。信仰碑。薬研彫。

日輪 文政五壬午天

(正面)

七庚申

月輪 四月十六日

(備考)

(転倒しているため裏側不明)

71 流紋岩、自然石。高さ一五六cm、巾一〇〇cm。

文化八年。信仰碑。薬研彫。(図版四)

日輪 文化八辛未天 和光院

(正面)

庚申供

月輪 秋八月十四日

(備考)

(和光院は「大館沿革史」によれば、修験寺であり、喜楽院とも言い、後に密厳寺と改めたとある。)

72 流紋岩、自然石。高さ一一八cm、巾一二六cm。
天保十四年。信仰碑。陰刻。

(正面) (梵字) サ 供養塔

(正面) (梵字) ウーン 庚 申

講中

天保十四
癸卯三月十七日

76 流紋岩、割石。天保三年。信仰碑。葉研彫。
(長根山南三峰神社) (図版五)

(正面) (梵字) 日輪 庚 申

天保三年
壬辰今月吉日

長崎 万太郎
石工 伊之助

73 流紋岩、自然石。高さ一〇八cm、巾七〇cm。
弘化三年。信仰碑。葉研彫。
(図版四)

(正面) (梵字) 日輪 弘化三 申

ウーン 丙午八
月輪

77 流紋岩、自然石。総高二二〇cm、巾一三〇cm。
安政五年。信仰碑。陰刻。
(長根山東) (図版五)

(正面) 八 聖 山

安政五年
戊午九月講中

74 流紋岩、自然石。高さ七五cm、巾四八cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。
(図版四)

(正面) (梵字) ウーン 庚 申

2 (長根山西)

75 流紋岩、自然石。高さ一四五cm、巾八五cm。
文政十二年。信仰碑。陰刻。
(図版五)

78 流紋岩、自然石。高さ一二五cm、巾一二〇cm。
弘化三年。信仰碑。陰刻。

市内相染町

1

(右側) 文政拾二天、
巳丑七月十六日

願主

渡 伊之助
佐藤 三正(平)
藤 升八

(正面) (梵字) ウーン 弘化三年

申 丙午八月

〔正面〕 庚 申

市内赤館

85 流紋岩、自然岩。総高二三三cm、巾一二五cm。

弘化四年。信仰碑。梵字のみ葉研彫。〔図版五〕

〔正面〕

〔梵字〕

金毘羅大権限

弘化四年

丁未三月

〔左側〕

田畑丑松(外に多数人名あり)

〔裏面〕

石工 長作(外多数あり)

86 流紋岩、割石。総高一七六cm、巾一四五cm。

弘化三年。信仰碑。梵字のみ葉研彫。〔図版六〕

石塚 佐七
藤田 庄七
瀬尾 房之助
佐川 左膳
泉 五兵衛
慈願主

弘化三年

〔正面〕

〔梵字〕

廿三夜

丙午五月

小 兵衛 □ 松 郎 □ 内 蔵 松 七 岩 七 勘 兵 平 三 右 衛 門 長 三 熊 之 太 三 金 兵 平 藤 之 吉 助

市内一心院南

(一心院境内)

87 花崗岩、造形。高さ九五cm。正徳三年。

〔図版六〕

〔右側〕

正徳三癸巳藏

〔正面〕

奉寄進御宝翁

願主

長井 清兵衛
同 善兵衛

〔備考〕

(灯籠形をしている。)

88 流紋岩、自然石。高さ一五〇cm、巾三二cm。

寛永十三年。墓碑(供養塔)。陰刻。〔図版六〕

〔正面〕

南無阿弥陀佛

寛永十三

法界天縁
利益

〔左側〕

一心院
良川

□ 村 新 吉
瀬 尾 德 弥
大山 儀 助
小泉 武 治
安藤 石 門
根本 米 松
佐藤 千 藏
餌釣村
多 郎 兵 衛
文 太 郎
孫 太 郎
甚 太 郎
福 之 郎
長 治
政 吉
小 右 門

(備考) (紀年のある碑としては、今回の調査碑中最古である。)

89 花崗岩、造形。薬師如来?。高さ一一〇cm。

宝永三年。(図版六)

(裏面) 宝永三丙 閏五月十八日 施主 長井 三左衛門 敬白

90 花崗岩、造形。五輪塔。高さ二二五cm。

延享元年。(図版六)

(右側)

居士 大姉子 秋 天 童子 齡松 紗寿 大姉 良幼 童子 風室 妙冷 信女

先祖代々

雲月 露 比近 麦山 慈禪 定尼

(正面)

(梵字) キリーク

サ サク

南無阿弥陀佛

德運 正功 居士 月心 妙遍 大姉 栄運 自翁 居士

(左側)

春恐 妙本 大姉 香山 妙柳 信女 秋 雪 童子 石道 居士 涼山 居士 大姉

(裏面)

寛保四甲子 二月廿七日 施主 小山権右衛門信温 小山監物信紹

91 凝灰質、造形。地藏?。年号不明。(図版六)

(備考)

(境内には他にも風化のため年号不明の墓碑(供養塔)が数基あり 何れも江戸中期〜末期にかけてのものと思われる。)

市内御坂

92 流紋岩、割石。高さ一〇〇cm、巾六〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 五 庚 申

願主

黒沢 清二郎 三井 兵右エ門 園沢 太 柏ヤ 孫市 石川 孫吉 園 園 園

(裏面)

93 粘板岩、板状。高さ一二八cm、巾五七cm。

大正九年。信仰碑。陰刻。

(正面) 七 庚 申

〔裏面〕

庚申講中イロハ順
 岩澤 岩澤 成田 和助
 岩澤 勸太郎 齋藤 岩五郎
 稲垣 健次郎 齋藤 市之助
 田中 甚太郎 木村 重助
 高橋 平吉 三野内 重吉
 東海林 鐵五郎
 癸起人
 岩澤 重助
 木野内 重助
 助?

市中神明町

1 (神明社境内)

94 流紋岩、割石。高さ一三八cm、巾二二〇cm。

嘉永二年。使仰碑。陰刻。(図版六)

〔右側〕

嘉永二年 己酉□月十日

〔正面〕

白峯宮

講中 助力
 江幡 藤吉
 三ッ倉 □四郎
 高橋 岩松
 石川 七三助
 伊藤 孫左郎
 原田屋 二四郎
 土雲屋 幸吉
 奈良 龜助
 原田 米奈
 麻戸 □奈
 松三 三郎
 岩沢 忠吉
 佐々木 久兵衛

山内 慶助
 國沢 岡右エ門
 岩瀬屋 定八
 皆川 幸助

天保三年。信仰碑。陰刻。(図版六)

〔右側〕

天保三年 辰十一月十八日

〔正面〕

椿神社

日輪 月輪

〔左側〕

百年祭執行
 昭和六年九月二日
 昭和三十二年九月二日
 石川 清三郎
 黒川 清三郎

96 砂岩、舟形。高さ八五cm、巾四六cm。

延宝六年。板碑(供養塔)。陰刻。(図版七)

〔右側〕

妙□清道吉喜秋妙悦 根本兵衛
 天室妙女妙三天安春西 同
 石塔本願象 道容同室妙清 同
 宗今 淨圓 又兵衛
 道喜 法室妙正□山内

〔正面〕

(梵字)
 願以此功德平(等施一切)
 千時延宝五六戊
 南無阿(弥陀仏)
 同発菩提心往(生安楽國)
 午

〔左側〕

乃至法界平(等利益)

95 流紋岩、割石。高さ二二〇cm、巾九八cm。

〔裏面〕

(備考) (正面の種子は阿弥陀三尊で、碑の下部は折れて細片化している。)
()内は調査者の推定による。

97 流紋岩、割石。高さ一一〇cm、巾三〇cm。
年号なし (推定宝暦八年)。 供養塔。 陰刻。 (図版七)

(正面) (梵字) 理源大師八百五十年塔

(備考) (理源大師(聖王)―真言宗醍醐派三宝院の信縁道当山派の派祖。
佐藤久治氏著「秋田山伏修験」に「理源大師九百年忌供養式三通文
化五年神宮寺」などが見られる。)

98 流紋岩、割石。高さ一二二cm、巾五六cm。
天保十四年。 信仰碑。 陰刻。 (図版七)

(右側) 小島 忠三郎 平泉 喜六 荒谷 吉之助
佐藤 五惣兵衛 明石 佐助 榎木 清右衛門
鎌田 藤右衛門 庄ヤ 松五郎 桶ヤ 多吉

(裏側) 鎌田 兵衛 今田 園松
石田 傳四良 小田 長吉
蛇川 長太 小林 長治
土門 三良 山崎 福太良

(正面) 日輪 天保十四年
庚 申

月輪 癸卯五月十八日

(左側) 木野内 〇八 田沢 園吉
佐藤 政吉 沢山 亦五良 盛谷 松五良 田山 音松
平泉 正右衛門 山口ヤ 茂兵衛 佐藤 甚五良

99 安山岩、自然石。高さ七七七cm、巾三七七cm。
弘化四年。 信仰碑。 陰刻。 (梵字のみ葉研彫。)

(正面) 日輪 (梵字) 庚 申
ウーン

月輪

(裏側) 弘化四未四月十一日 奈良 為五郎
原田 米松
木村 兵右エ門

100 流紋岩、自然石。高さ一一八cm、巾四八cm。
安政二年。 信仰碑。 陰刻。 (図版七)

(右側) 根本 善介 根本 善助
石田 大太郎 石田
田中 又右エ門
(ママ) 春沢 忠吉
黒沢 清四郎
木村 七右エ門
寺沢 甚七

(正面) 日輪 五 庚 申
月輪

月輪

(左側) 乙安政二年 高橋 榮吉 蛇川 与四郎
卯八月二十日 山本 万三助
佐藤 卯太良
笹谷 喜助

佐藤 喜助

101 安山岩、自然石。高さ八二cm、巾三八cm。
安政五年。信仰碑。陰刻。〔図版七〕

〔正面〕 青麻岩戸三光宮
〔裏面〕 戊午四月廿八日

〔備考〕 講中
〔文献等に見られない碑であるが、天岩戸からして天照大神の信仰か?〕

102 流紋岩、自然石。高さ一二九cm、巾三三cm。
万延元年。信仰碑。陰刻。〔図版七〕

〔正面〕 青麻岩戸三光宮
萬延元年
願主 (下の台座)
若狭屋 藤十郎
沢の長 助
石世話 山本万之助
黒沢 清三郎
蛇川 与四郎
松本 七五郎
稲部 市郎エ門
ノシロ (消している)
板澤屋 八平

103 流紋岩、自然石。高さ一三〇cm、巾一八〇cm。
安政二年。信仰碑。陰刻。〔図版七〕

〔正面〕 日輪 庚申
月輪

〔左側〕 乙安政二年
卯八月三十日

104 凝灰質、割石。高さ一一五cm、巾五六cm。
明治六年。信仰碑。陰刻。〔碑面を磨いている。〕

〔右側〕 山内 時之助
山内 久治
工藤 武助
田所 国松
山内 治兵衛
田畑 儀兵衛
須藤 源三郎
山ノ内 慶吉

〔正面〕 太平山

〔裏面〕 講中
根本三郎右エ門
根本 順助
齋藤 太左エ門
齋藤 健十郎
細羽 見友八
齋藤 斧松
吉田 喜作
工藤 為之助
櫻庭 為之助
榎田 市左エ門

〔左側〕 明治六年五月十七日 石工 □ 長五良

105 流紋岩、割石。総高三三八cm、巾一〇〇cm。
明治十七年。信仰碑。陰刻。〔図版八〕

〔正面〕 木曾吉山三吉神社
〔左側〕 明治十七年施主
旧八月十五日建

106 流紋岩、自然石。高さ九五cm、巾七九cm。
天保十四年。信仰碑。陰刻。

日輪 天保十四年

〔正面〕 庚 申

月輪 卯九月三十日

107 流紋岩、自然石。高さ九五cm、巾五〇cm。
安政三年。信仰碑。陰刻。

安政三年

〔正面〕 白 峯 宮 (二つに折れている)

辰五月十日 講中

108 流紋岩、自然石。高さ七〇cm、巾七八cm。
嘉永七年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕 嘉永七年

〔正面〕 金毘羅大権現

〔左側〕 寅一月

109 流紋岩、自然石。高さ二二〇cm、巾四五cm。
文政十一年。信仰碑。陰刻。 (図版八)

〔正面〕 金毘羅大権 (現)

文政十一歳奇拍

〔裏面〕

小 島 忠三良 岩神村 宇吉
長崎 長右衛門 同 卯之助
富 波 治兵衛 四ツ屋 喜代太
能登屋 十兵衛 若松 □ 固エ門
横 井 得兵衛 相 澤 勤五良
齋 藤 甚 助
講 中
子四月六日

110 流紋岩、割石。高さ一一四cm、巾三六cm。
天保二年。信仰碑。陰刻。 (図版八)

〔正面〕 大山祇神社

〔裏面〕

千時天保二年 講 中
午卯八月吉祥日
中 嶋 和 助
兵 工 門
兵 工 門
清 八 助
岩 □ 屋 寅 松
木 村 松

〔備考〕 (大山祇は「山の神」である。また、この碑について「大館沿革史」に「曲物細工師中嶋清助等八名にて天保二年に建たる大山祇神の石碑あり」と書かれているので中嶋和助のところは、清助となるのかも知れない)

111 流紋岩、自然石。高さ八七cm、巾三〇cm。
万延元年。信仰碑。陰刻。 (図版八)

萬延元年 庚申五月建

〔正面〕 廿三夜

松本 助五郎

〔裏面〕 月讀神

〔備考〕 (これまででも多くの二十三夜塔が出てきたが、「サク」勢至菩薩の種子の付いているものは、仏教上のものであり、この石碑のような「月読命」「月夜見命」などであるのは、神道上のものであるといふ。)

112 粘板岩、板状。高さ七〇cm、巾四一cm。

昭和十一年。信仰碑。(図版八)

日輪

〔正面〕 七庚申

月輪

昭和十一年旧八月二十日

西村 久五郎
佐藤 運吉
山崎 道左エ門
島内 國七郎
小坂 與助
戸田 勝治

〔裏面〕

113 安山岩、自然石。高さ一〇〇cm、巾五五cm。

安政三年。信仰碑。陰刻。(図版八)

〔正面〕 八聖山

安政三辰三
霜月十五日
願主 長井 清兵衛

114 流紋岩、自然石。高さ一〇二cm、巾八〇cm。

弘化三年。信仰碑。陰刻。(図版八)

〔正面〕 太平山

弘化三
丙午八月

皆川 彦助
木村 丈助
田畑 儀兵衛
土門 新治
松崎 政右エ門
原田 忠藏

〔裏面〕

115 流紋岩、自然石。慶応三年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 月三日(月)

慶応三年
卯五月二日

〔裏面〕

116 流紋岩、自然石。高さ八〇cm、巾五六cm。

弘化三年。信仰碑。

〔正面〕 庚申

〔裏面〕 弘化三年
丙午八月

117 流紋岩、自然石。高さ一一七cm、巾七六cm。
天保三年。信仰碑。陰刻。

日輪

〔正面〕 庚申

月輪

〔裏面〕 天保三年 講中
壬辰十一月十八日敬白

118 安山岩、自然石。高さ八〇cm、巾四八cm。
嘉永七年。信仰碑。陰刻。

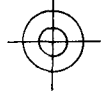
〔右側〕 嘉永七年 建立
甲寅歲八月廿四日

日輪

〔正面〕 椿神社

月輪

〔裏面〕 大館講中
長 茜 北 石 長 石 奈 松 三
泰 彦 久 常 熊 永 重 久



武 信 鈴 熊
与 謹 留 長

119 閃緑岩、自然石。高さ一〇八cm、巾六三cm。
明治二十三年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 七庚申
猿田彦大神

〔裏面〕 明治二十三年
庚子十月十四日
講中 造立

松 本 助 五 郎
若 狹 助
花 田 嘉 一 郎
若 本 熊 吉
荒 本 千 代 治
富 橋 永 吉
高 橋 彌 助
松 本 助

120 流紋岩、自然石。高さ七八cm、巾四八cm。
明治十二年。信仰碑。陰刻。 (図版八)

〔正面〕 猿田彦大神 (分夕)
明治十二年十月

若 狹 慶 助
岩 本 忠 助
松 本 彌 助
若 狹 藤 十 郎
花 園 伊 助
原 平 吉
石 川 長 藏
小 野 口 松
佐 藤 久 内
松 本 重 兵 衛

〔備考〕 (猿田彦と同じ意味ではあるが、猿田と解するのが古いという。)

121 安山岩、角柱。高さ九三cm、巾二四・五cm。
安永四年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕 四永四乙未歲七月廿五日

〔正面〕 猿田彦太社

〔左側〕 大縮総口願主

〔裏面〕 敬白

122 流紋岩、自然石。高さ一二五cm、巾四八cm。

慶応元年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 田代山

〔裏面〕 慶応元年

123 安山岩、造形。高さ(上部のみ)一〇七cm、巾八〇cm。

弘化二年。狛犬。〔図版九〕

〔左右共〕 奉納弘化二巳四月吉日
大縮平泉氏

2 (太平山)

124 安山岩、割石。高さ(碑面)一七五cm、巾八〇cm。

明治二十七年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太平山

〔左側〕 明治廿七年舊八月十七日

松若講中
世話人 斎藤政藏

市内北神明町

1 (一中裏稻荷神社)

125 凝灰質、角柱。高さ九一cm、巾二四cm。

寛政九年。信仰碑。陰刻(一部浮彫り)。

〔図版九〕

〔右側〕 寛政九年

日輪

〔正面〕 猿田彦太神

敬白

月輪

〔左側〕 丁巳八月廿四日

126 流紋岩、自然石。高さ八〇cm、巾三五cm。

安政二年。信仰碑。葉研彫。〔図版九〕

〔右側〕

芳賀辰三
石田祐藏
田中専右エ門
太田四助

〔正面〕 ウーン (梵字) 五庚申

安政二乙卯

八月三十日

小林兵左エ門
江幡準人
奈良為五郎
原田加太郎
世話人 定吉

市内舟場

1 (稻荷神社)

127 流紋岩、自然石。高さ九五cm、巾五五cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。(図版九)

日輪

(正面) 五 庚 申

月輪

128 凝灰質、自然石。高さ一二二cm、巾四五cm。
文政五年。信仰碑。陰刻。(図版九)

(正面) 庚 申 塔

(裏面) 文政□□
壬午八月十九日

(備考) (文政で午の付く年は五年。)

129 流紋岩、自然石。高さ八〇cm、巾六〇cm。
弘化三年。信仰碑。陰刻。

(右側) 弘化二
丙午八月

(正面) 庚 申

130 流紋岩、自然石。高さ四八cm、巾二五cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

日輪

(正面) 七 庚 申

月輪

131 流紋岩、自然石。高さ八〇cm、巾四〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。(図派九)

(正面) 田 代 山

132 砂岩質、自然石。高さ一二五cm、巾七〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 太 平 山

133 流紋岩、自然石。高さ一〇〇cm、巾六〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 金毘羅大権現

134 凝灰質、造形。高さ七七cm、巾三五cm。
年号なし。金精様。(図版九)

〔正面〕 “人面状”

〔裏面〕 月山

〔備考〕 (裏に月山とあるが、その外は欠落ちている。)

135 安山岩、自然石。高さ八五cm、巾六〇cm。

明治三十年。使仰碑。陰刻。〔図版九〕

〔正面〕 廿三夜

〔裏面〕

明治三十丁酉
陰四月廿三日
松立

願主 鳴海利助

市内泉町

1 (古神明社)

136 流紋岩、自然石。高さ四〇cm、巾六六cm。

年号なし。信仰碑。陰刻

〔正面〕 七庚申

137 安山岩、板状。高さ一六一cm、巾六七cm。

明治四十二年。信仰碑。陰刻。〔図版九〕

〔右側〕

伊藤 要二郎
中山 米太郎
野口 虎雄
藤嶋 卓

〔正面〕 廿三夜

明治四十二年旧九月〇〇二日
イロハ順

〔裏面〕

伊藤 多助
稲葉 外之松
稲葉 長松
若狭 兼松
渡辺 長吉
河田 留吉

若狭 萬之助
高橋 由松
高山 平吉
仲山 平治
鳴海 市太郎
山田 長五郎
山田 久次郎
藤島 定吉
佐々木 三平

138 流紋岩、自然石。高さ七七cm、巾六〇cm。

明治三十三年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 庚申

明治卅三年
旧十月十二日

〔裏面〕

井直之助
當政吉

市内青葉町

1 (放送局裏)

139 流紋岩、自然石。高さ一一〇cm、巾七〇cm。

大正七年。信仰碑。陰刻

〔正面〕 田代山神社

〔左側〕 大正七年七月十七日建立

市内小館花

(神明社境内)

140

流紋岩、自然石。高さ六七cm、巾六〇cm。
天保十二年。信仰碑。陰刻。(図版一〇)

日輪

(正面) 庚申

月輪

(左側)

弘化三 願主
丙午 伊藤 内蔵松
十月 同 政五郎
同 松太郎

(裏面)

天保十二
丑五月立之

市内大町

1

(玉林寺境内)

141

流紋岩、自然石。宝曆十四年。墓碑。陰刻。
蓮座は浮彫り。(図版一〇)

(正面)

南無阿弥陀佛

蓮座

(裏面)

宝曆十四歲正月五日

大館市柄沢

1

142

凝灰質、自然石。高さ一〇九cm、巾九三cm。
弘化三年。信仰碑。陰刻。

日輪

(正面) 庚申

月輪 午八月廿日

當村講中
右工門
國兵衛
願主 (マナ)
大館向田丁
長三郎

長

143

凝灰質、造形。高さ一七cm、巾三七cm。
年号不明。不動明王。(図版一〇)

大館市萩の台

1

144

流紋岩、自然石。高さ一七〇cm、巾一三八cm。
年号なし。信仰碑。薬研彫。(図版一〇)

日輪

(正面) 庚申

月輪

大館市池内

1

(八幡神社)

145

流紋岩、自然石。高さ一〇二cm、巾三三cm。

151 安山岩、自然石。高さ八五cm、巾四四cm。
安政四年。信仰碑。陰刻。(図版一〇)

安政四年
己五月

(正面) 三日月

願主 當村
仁吉郎

152 流紋岩、自然石。高さ一二〇cm、巾五〇cm。
年号不明。信仰碑。陰刻。

(正面) 青麻天覆観

願主
甲森

(備考) (一度焼けたらしく、欠落がひどい。)

153 流紋岩、自然石。高さ一三〇cm、巾二二五cm。
大正三年。信仰碑。陰刻。

(正面) 田代山神社

(裏面) 大正三申寅年一月建之

154 流紋岩、自然石。高さ二二〇cm、巾九八cm。
弘化四年。信仰碑。陰刻。(図版一一)

願主 高橋 傳八
大和屋 久兵衛

(右側) 弘化四年
丁未八月日

(正面) (梵字) 金毘羅大権現

(左側) 郷中安全

藤原 米工門
本田 小右工門
甲森 弥太郎
本田 市太郎
甲森 甚太郎
関口 甚太郎
福田 伊松

甲森 久五郎
甲森 〇〇工門
桂園 三右工門

155 流紋岩、割石。高さ一五五cm、巾二三cm。
文久二年。信仰碑。陰刻。(図版一二)

(右側) 〇文久二年
壬辰六年十二年

當村 〇〇者中

(正面) 大山祇神

156 流紋岩、自然石。高さ一八五cm、巾五〇cm。
大正三年。信仰碑。陰刻。(図版一三)

(下の台) 甲寅 大正三年一月二十日

(正面) 山神社

全 清藏
兜森 松之助
全 德五郎
島山 市松
泉森 龜松
本多 惣助
関口 角助
兜森 彦松

157 安山岩、造形。安政六年。狛犬。

(右側) 願主 兜森 伊園工門
安政六年 己未四月 々中 安全

兜 森 金五郎
山 多 喜
本 多 勝之助
兜 多 龜松
本 多 寅之助
関 口 寅治
本 多 東久松
本 全 藤治
本 多 仁助

(左側) 願主 甲森 久五良
徳松
彌吉郎
山 仁吉郎
安政六年 己未四月八日 々中 安全

158 流紋岩、自然石。高さ二二一cm、巾五〇cm。
年号不明。信仰碑。

(備考) (碑正面左側に \square 、右側に \square が見えるが、一度焼けたらしく欠落がひどく不明である。尚、上四ノ羽出にも「羽」、田「田」の見える不明碑があり、或は「羽黒山」「田代山」なのかも知れない。)

159 流紋岩、造形。文久三年。手水鉢。(図版一一)

(正面) 郷中 安全 文久 三年 亥丑 一月

大館市山館

1 (八幡神社下)

160 安山岩、自然石。高さ七三cm、巾三四cm。
文化五年。信仰碑。陰刻。(図版一一)

(正面) 日輪 文化五 辰八月
猿田彦大神

(備考) (他に大きな無名碑一基あり。)

161 凝灰質、造形。高さ二二〇cm。明和年間?
五輪塔。陰刻。

2 (墓地内)

(右側) (梵字) 田・□・ア・□ (戒名多数あり)

〔正面〕 □・□・□・□・□

奉書圖大乗

〔左側〕 バン・□・□・バク・ウーン

(年号月日がある。)
天九月十四日

〔裏面〕 ア・アク・カーン・ウーン

比内庄山館邑
藤原氏梅流斬
寿栄
南比内大葛邑
石工
七郎兵衛

〔備考〕 (凝灰質のため風化・破損が進み、拓本を取っても不明箇所が多い。)

162

凝灰質、造形。高さ一〇三cm、巾五六cm。

天明五年。三界萬霊塔。

〔右側〕 念佛講中

〔正面〕 (破損)

〔左側〕 天明四年
圖七月四日

〔備考〕 (天明五年とすれば巳の年であるが、寅だとすれば二年か?)

大館市片山

1 (八坂神社)

163

流紋岩、自然石。高さ二〇〇cm、巾一〇〇cm。

元治二年。信仰碑。陰刻。 (図版一一)

〔正面〕 月夜見命

〔左側〕 元治二年 講中
四月吉日

164

流紋岩、割石。高さ一二〇cm、巾七八cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。 (図版一二)

2 (商業高校入口)

〔右側〕 (マチ)
石大工大ダテ田丁
与吉

〔正面〕 不二
不鳥海山薬師如来
不二仙元大菩薩

〔裏面〕 江戸本所
先達
藤原泰行平山

〔備考〕

(この石碑の外に二ツ山に二基あり、何れも「泰行平山」によるもので、この碑も他の碑と同年代と考えられる。尚、「泰行平山」については、「大館沿革史」等に詳しいので詳細は省く。)

165

流紋岩、割石。高さ(碑面)二〇〇cm、巾七五cm。

弘化二年。記念碑。陰刻。 (図版一三)

3 (二ツ山下)

4 (二ツ山々頂)

166 流紋岩、自然石。高さ九三cm、巾九〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

泰行平山

〔正面〕 廿三夜

5 (根下戸神明社境内)

167 流紋岩、自然石。高さ一三〇cm、巾五〇cm。
弘化三年。信仰碑。陰刻。 (図版一二)

〔右側〕 弘下三年村中

日輪

〔正面〕 庚申

月輪

〔左側〕 願主 田中

168 流紋岩、割石。高さ一六〇cm、巾一四〇cm。
明治二十六年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太平山

〔裏面〕

明治廿六年
癸巳八月
田中(消している)
長助

169 流紋岩、割石。高さ一二〇cm、巾三〇cm。

安政二年。信仰碑。陰刻。

日輪

〔正面〕 庚申 郷中

月輪

〔裏面〕 安政二乙卯

6 (片山野、館ツコ)

170 流紋岩、割石。年号不明。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 □ 平山

〔備考〕

(折れているが、太平山であろう。また、表面には小さい墨書が多数あり、風呂屋町、中町などの町名、人名などが書かれているが、建立当時のものか?)

171 流紋岩、自然石。高さ二一五cm、巾一一〇cm。
年号不明。信仰碑。陰刻。 (図版一二)

〔右側〕 乙丑四月日 講中
大館田町

〔正面〕 (梵字) 廿三夜

〔備考〕 (同所の外の碑と比較して、乙丑の付く年は、慶応元年か?)

172 流紋岩、自然石。高さ一八三 cm、巾九〇 cm。
慶応二年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 田代山

慶應二丙寅 八月
建立主
田園屋 三太郎
佐太郎
平鹿屋 園吉
安部 太助

〔裏面〕

173 流紋岩、自然石。高さ二〇〇 cm、巾一四〇 cm。

慶応元年。信仰碑。陰刻。 (図版二二)

〔正面〕 三日月

慶應元年 乙酉六月吉日
大館町
荒川 園
日景 園
片山 福園
小池 園四郎
小林 園兵衛
中鳴 清助

〔備考〕 (170、173までは、最近同所に移転され、以前は付近の天神様にあつたという。)

大館市餅田

1 (高清水勇助氏宅)

174 流紋岩、割石。高さ八六 cm、巾三四 cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 庚申

〔備考〕 (この碑は以前に大館部品の所にあつた土盛りの上であり、大館部品の建設により土盛りは取り壊されて、石碑だけが高清水氏宅の庭に移転された。)

大館市山田渡

1 (神社境内)

175 流紋岩、自然石。高さ一〇〇 cm、巾六五 cm。
明治十五年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太平山

明治十五年 午九月吉日

176 安山岩、自然石。高さ一一五 cm、巾四五 cm。

明治三十九年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕 明治三十九年 主唱者 蛇川助吉
旧七月八日 賛同者 山田渡一同

〔正面〕 古四王神社

177 流紋岩、自然石。高さ一一五 cm、巾六四 cm。
明治十八年。信仰碑。陰刻。

明治十八年

〔正面〕 唐 裕 神 社

乙酉七月七日

178 凝灰質、角柱。高さ六五cm、巾二四cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 金 勢 宮

大館市下川沿

1 (農協支所の横)

179 流紋岩、割石。高さ一八五cm、巾三〇cm。

嘉永七年。信仰碑。陰刻。〔図版一一〕

〔右側〕 嘉永七年甲寅三月日 同 兵 治
同 東 工 門

日輪

〔正面〕 庚 申 講 中

月輪

〔備考〕 (土盛りの上)にあり、昭和四十一年の角柱もあり、最近も講中が統
いてゐるものと思われる。)

2 (下川沿駅構内)

180 自然石。高さ一四五cm、巾八五cm。

昭和三十三年。記念碑。陰刻。〔図版一一〕

〔正面〕 小林多喜二生誕の地

〔裏面〕 一九五七年六月 渙 書
江 口

〔備考〕

(小林多喜二は一九〇三年に当地で生まれた。日本のプロレタリア文字の第一人者で、一九三三年二月二〇日拷問死。代表作には『蟹工船』、『不在地主』、『党生活者』等がある。江口渙(かん・本名きよし)一八八七年生で当時プロレタリア作家同盟中央委員長、多喜二の葬儀委員長をする。現日本民主主義文字同盟議長。代表作『赤い矢帆』、『人生の人口』等がある。)

3 (学校の裏山)

181 凝灰質、自然石。高さ二二〇cm、巾一三〇cm。

明治二十年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太 平 山

〔左側〕 明治廿年六月吉日

182 流紋岩、自然石。高さ一五〇cm、巾八〇cm。

明治二年。信仰碑。陰刻。

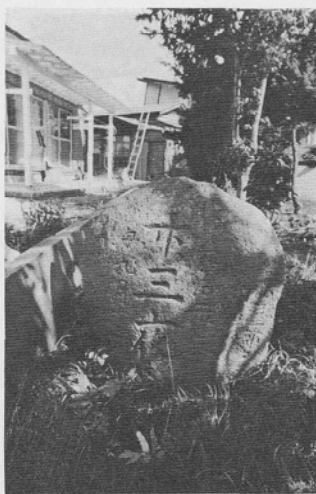
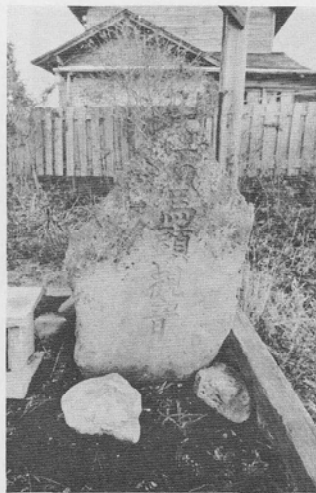
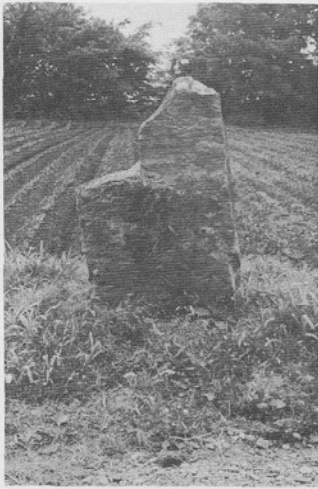
〔正面〕 田 代 山



52	64	73
58	69	74
60	71	

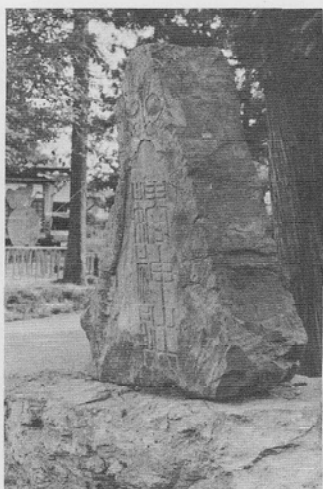
(数字は本文の通し番号)

図版 4



75	79	84
76	80	85
77	83	

図版 5



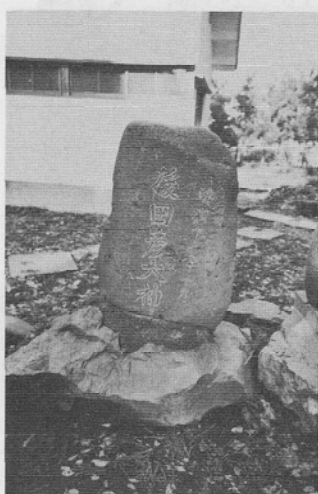
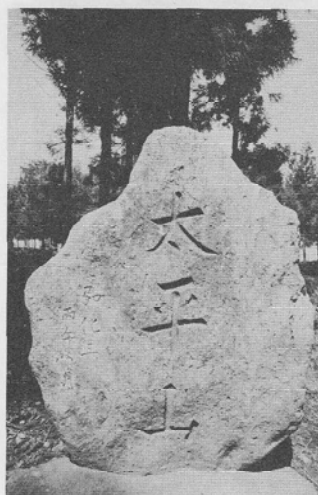
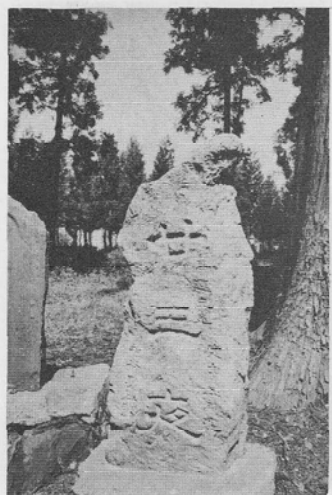
86	89	94
87	90	95
88	91	

图版 6



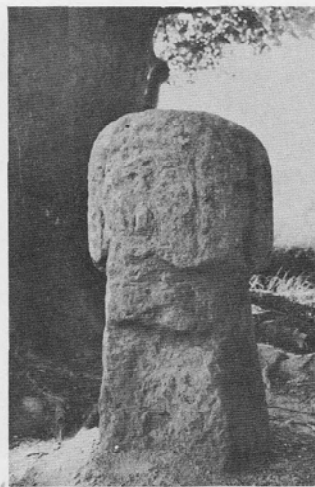
96	99	102
97	100	103
98	101	

图版 7



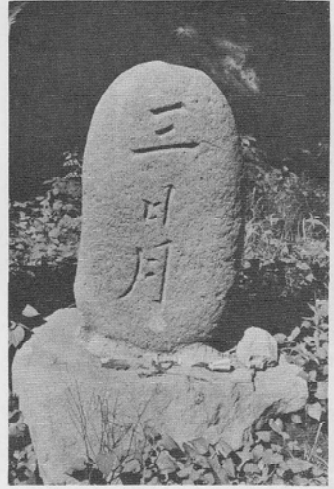
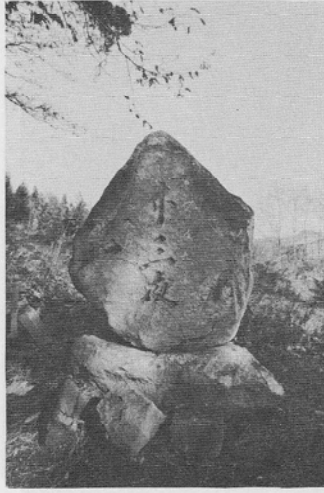
105	111	114
109	112	120
110	113	

图版 8



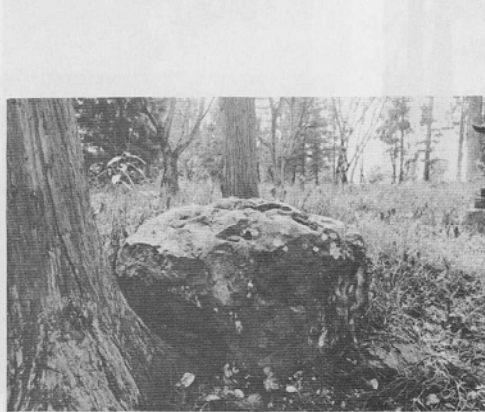
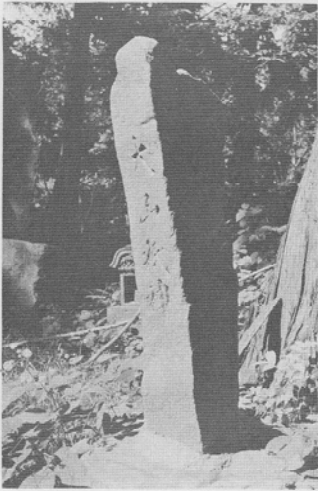
123	128	135
125	131	137
126	134	

図版 9



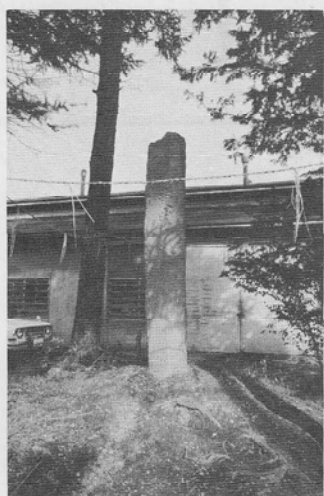
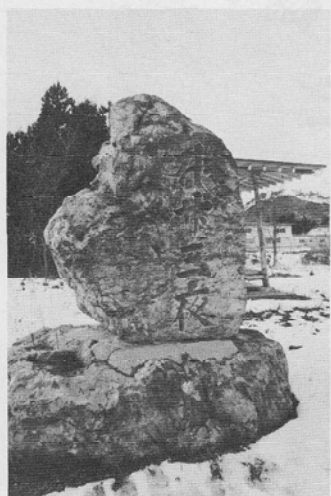
141	146	150
143	147	151
144	140	

図版 10



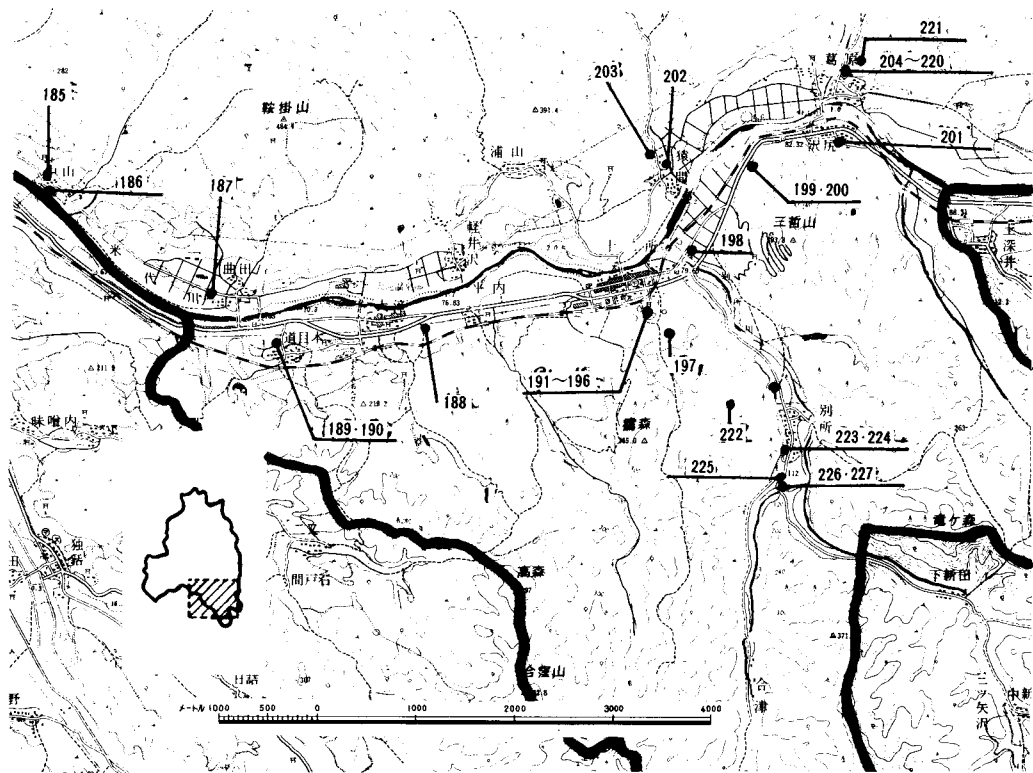
154	160	164
155	163	165
156	159	

図版 1 1



167	176	183
171	179	184
173	180	

図版 12



第 3 図 十二所地区 185~227

大館市中山

1 (八幡神社)

185 流紋岩、自然石。高さ一一五 cm、巾七〇 cm。文化五年。信仰碑。陰刻。

(正面)

庚

申

中山村講中

文化五戊辰年

2 (墓地内)

186 安山岩、自然石。高さ一二〇 cm、巾五五 cm。文化四年。供養碑。陰刻。(図版一三)

(右側)

文化四丁卯年
九月日

(正面)

(梵字)
キリーク

三界萬靈

大館市曲田

1

187 流紋岩、自然石。高さ八六 cm、巾六五 cm。年号なし。信仰碑。陰刻。(図版一三)

(正面)

庚

申

大館市大滝

188 凝灰質、割石。高さ一〇〇cm、巾六〇cm。

年号不明。信仰碑。陰刻。

(正面) 庚 申

大館市道目木

189 流紋岩、自然石。高さ一一〇cm、巾五〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 二十三夜

190 流紋岩、自然石。高さ一二〇cm、巾五八cm。

明治七年。信仰碑。陰刻。

(正面) 猿田彦神社

明治七
戊十月

- 奈良 團之助
- 同 寅助
- 同 喜兵衛
- 同 木右エ門
- 同 新八
- 同 庄兵衛
- 同 松兵衛
- 同 三四郎

(裏面)

奈良 三之丞
同 □□助

大館市十二所

191 流紋岩、割石。高さ一三〇cm、巾五八cm。

大正十五年。信仰碑。陰刻。(図版二三)

(正面) 豊受姫大神

大正十五年
五月

- 本間 銀兵工
- 本間 為吉
- 渡辺 慶助
- 中山 □助
- 奈良 定吉
- 別所 落
- 沢尻 落
- 葛原 落
- 奈良 勝美
- 野口 欣一
- 谷田部 佐兵工
- 松下 常助
- 外 二十八名
- 猿間 落
- 浦山 落
- 大滝 落

(裏面)

(備考) (豊受大神宮は豊受宮・度会宮・外宮ともいい、豊受大神は皇大神の御饌津神、食物の神で五穀豊穡の神とされている。)

192 流紋岩、割石。高さ一一五cm、巾六〇cm。
大正十年。信仰碑。陰刻。

(右側)

(正面) 聖徳太子

- 世話 人
- 松本 鉄五郎
- 千葉 嘉吉
- 松田 永助
- 濱野 千太郎
- 奈良 定吉

〔左側〕

一千三百年祭紀念
大正十年四月八日
大工協同會

發起人

會長 谷田部 吉助
畠山 七太郎
矢田 了雲

〔備考〕

（太子講として大工、左官、桶屋などの建築関係職人が集まって、寺院建立史上大きな存在であった聖徳太子を祭ったものである。）

193

流紋岩、自然石。高さ二三二cm、巾七〇cm。

嘉永元年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕

世話

幸左エ門
内七
助七
儀十
八

〔正面〕

山 神 宮

〔左側〕

嘉永元年
申四月十二日
願野内永藏
主 谷川原伊織
納 兩入
十二一所郷中

194

流紋岩、自然石。高さ一五五cm、巾七〇cm。

弘化四年。信仰碑。陰刻。

〔図版一三〕

〔右側〕

武運長久當所安全祈
別當 自性院

〔正面〕

二十三日

195

流紋岩、自然石。高さ一二七cm、巾一一五cm。

弘化四年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

天満大自在天神

〔裏面〕

弘化四年
丁未三月廿六日
谷川原伊織
團 困 建

〔備考〕

（菅原道真を祭る天満宮と同じで、一般には学問の神とされている。また、雷神信仰とも深い関係がある。）

〔左側〕

弘化四年
丁未五月日
大願主

赤津嘉市
成田勘太
佐々木儀八
佐々木幸左
藤村兵内

196

流紋岩、自然石。高さ一二三cm、巾一七五cm。

弘化三年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

金毘羅大権現

行者剛海
建之

〔裏面〕

弘化三
丙午
宝五月日
石寄附人
曲木光邦

2 (真山神社)

197 安山岩、自然石。高さ二六〇cm、巾一〇〇cm。

元治元年。信仰碑。陰刻。

元治元年甲子四月

(正面) 真山大権現

佐谷幹武謹書

佐谷

伯宮

(左側)

武運長久五穀成就
石井源藏
武田与伯
十二所郷中

別當 自性院
當所安全所祈
石井長兵衛
谷田部佐兵衛
中村内藏吉
千葉金五郎

(備考)

(男鹿の真山の信仰)

3 (三哲神社参道口)

198 流紋岩、自然石。高さ七〇cm、巾三七cm。

文政四年。道標。陰刻。(図版一三)

文政四年

(正面) 三哲道

己七月 施主 國良
タメ

(備考)

(施主名は再と四を離して、「世四良」または「幸四良」と読むのか?)

4 (十二所村末の国道沿)

199 安山岩、自然石。高さ一二五cm、巾一一〇cm。

安政六年。信仰碑。陰刻。(図版一三)

印

(正面) 太平山

印

鞍嶺藤貞嘉印

安政六年己未四月八日
十二所沢尻葛原郷中安全
願主

加藤平助
工藤十兵衛
吉田清吉
中山内藏吉
千村金五郎
加賀松之助
中村萬太郎
田村松

(裏面)

(備考)

(正面の印は、前出の真山大権現にあった印章と同じ「佐谷幹武」である。)

200

自然石。高さ六四cm、巾四〇cm。
大正十四年。信仰碑。陰刻。

(正面) 龍王大神

大正十四年

旧八月十七日
中村竹之助 建立

(裏面)

(備考)

(水神信仰である。また、199と共に付近より移転。)

大館市沢尻

201 流紋岩、板状。高さ一二六cm、巾八〇cm。
天保三年。信仰碑。陰刻。

日輪 天保三年 講中 花田 善九良
(梵字) 同 源太良
同 善之助
イ 庚 申

月輪 辰三月十三日建之 宿 中嶋 作介
同 宗介
花田 与介

(備考) (「イ」は地藏菩薩の種子であるが、日輪・月輪を種子の一部として使用している。)

大館市猿間

202 自然石。高さ一五六cm、巾一三〇cm。
明治十五年。信仰碑。陰刻。(図版一三)

(正面) 太平山

明治十五年九月吉日辰

2

203 流紋岩、自然石。高さ一二五cm、巾八〇cm。
文化五年。信仰碑。陰刻。

(正面)

(梵字) 庚 申

文化五年
閏八月吉日

(備考)

(種子は地藏菩薩と思えるのだが、あるいはウーンかも知れない。また無刻字の石碑四基と並んでいる。)

大館市葛原

204 自然石。高さ七七cm、巾九〇cm。
嘉永七年。信仰碑。陰刻。(図版一三)

(右側)

當所 木次谷 源十郎 甚右衛門
木次谷 権助 丑之助
市十郎 三太郎 吉
仁助

(正面)

庚 申

嘉永七年
甲寅七月(吉)日

205 自然石。高さ二三〇cm、巾一一七cm。
万延元年。信仰碑。陰刻。(図版一四)

(正面)

二十三夜

211 砂岩、造形。高さ七八cm、巾二八cm。
年号なし。青面金剛童子。(図版一四)

212 流紋岩、自然石。高さ一四五cm、巾一二五cm。
安政二年。信仰碑。陰刻。

(正面) 金毘羅大権現

安政二年 乙卯三月十日
願主 菅原 駒八 吉
清右工門 七口 政之介 仁介 清松 善治

213 安山岩、自然石。高さ六〇cm、巾四五cm。
明治九年。信仰碑。陰刻。

(右側) 明治九年 四月廿二日建立
願主 講中
日輪
(正面) 庚申
月輪

214 泥岩、自然石。高さ七五cm、巾五〇cm。
安政七年。信仰碑。陰刻。

(正面) 庚申

安政七年 庚申二月廿五日
普所 基右工門 園田 仁因 市之助 權十郎 三太郎

215 泥岩、自然石。高さ七三cm、巾四八cm。
天保十四年。信仰碑。陰刻。

(右側)

太左工門 園因 丑之助 三太良

(正面)

日輪 (梵字) ハン
天保十四年 庚申
癸卯九月廿日 月輪

(左側)

別當 自性院 源十良
講中 木次谷 權助
木次谷 源之丞 三吉
市太良

216 安山岩、自然石。高さ七五cm、巾五〇cm。
安政二年。信仰碑。陰刻。(図版一四)

〔正面〕 庚 申
安政二年
乙申八月吉日

217 自然石。高さ九〇cm、巾五三cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 庚 申

218 流紋岩、割石。高さ一〇七cm、巾七一cm。

慶応二年。信仰碑。陰刻。

慶應二

〔正面〕 庚 申

寅九月四日

田 田 田
田 田 田
与 太

長右エ門
甚一良
三之丞
因五郎
三吉

219 凝灰質、造形。高さ五五cm、巾二二cm。
年号なし。不動明王。

220 砂岩、造形。高さ七八cm、巾二三cm。
年号なし。地藏

〔備考〕

（地蔵の安置されている小屋の中に、板状の石があり、その碑面に
「文政十二年」とあり、奥の方に同一のものと思われる板状の石に
「別當自性院」「平八郎」「主一善八郎」とある。この地藏と関係
があるのか？両方とも裏面には何も書かれていない。）

2 〔赤沢口道の山頂〕

221 自然石。高さ一三〇cm、巾一三五cm。

明治十五年。信仰碑。陰刻。

明治十五年十一月村中

〔正面〕 三吉大神

大館市別所

1 〔大日社の裏の山頂〕

222 自然石。高さ一四〇cm、巾七〇cm。

明治十六年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕 明治十六年九月

〔正面〕 三吉大神

223

2 (上別所絵馬堂横)

自然石。高さ八〇cm、巾四五cm。
嘉永六年。信仰碑。陰刻。(図版一四)

〔正面〕

日輪

(梵字)

庚申

別所

月輪

イ

嘉永四年

癸丑六月十七日

願主

清五郎吉
松太郎丞
清太郎
清三郎
惣右エ門(惣左エ門)
惣右エ門
惣左エ門
惣右エ門
惣左エ門
惣右エ門
惣左エ門

〔備考〕

(地藏菩薩の種子は、日輪・月輪を利用している。)

224

輝緑岩、割石。高さ九〇cm、巾三〇cm。
文政四年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕

文政四年

別所村

己三月九日

願主

与
五
清之
清七
庄三郎
惣右エ門
惣左郎
千代松

〔正面〕

日輪

(梵字)

庚申

月輪

イ

〔備考〕

(前の碑と同様に、地藏種子に、日輪・月輪を利用している。)

225

3 (上別所バス停)

流紋岩、自然石。高さ一二五cm、巾一〇五cm。
弘化五年。信仰碑。陰刻。(図版一四)

〔正面〕

日輪

弘化五年

(梵字)

庚申

月輪

申二月吉祥日

〔備考〕

(大きい松の根元にあり、村はずれであるので、道切り繩も張られており、南蛮の実、ニンニクなどが下げられている。また、兩村末には鐘馗様も祀られている。)

226

4 (バス停より約三〇米南)

安山岩、自然石。高さ九〇cm、巾六八cm。
天保三年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

日輪

天保三年

庚申

月輪

□田田□

田田

227

自然石。高さ九五cm、巾四五cm。
弘化三年。信仰碑。陰刻。(図版一四)

〔正面〕

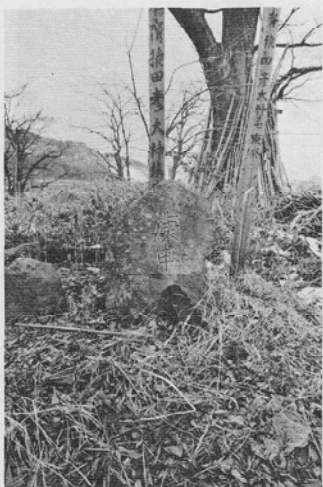
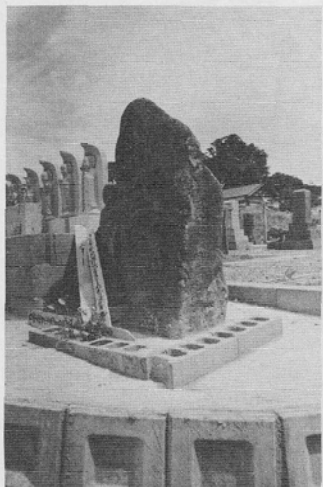
日輪

弘化三年

庚申

月輪

午八月四日



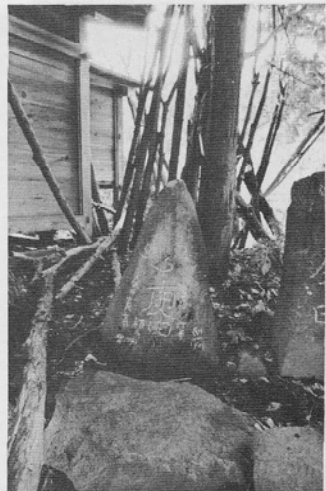
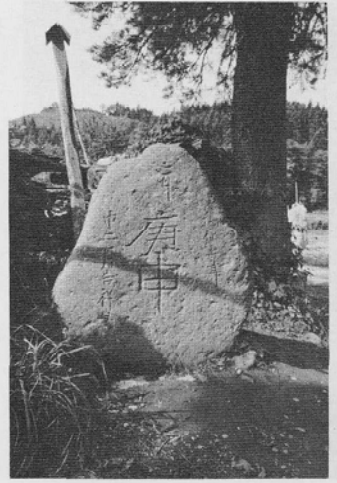
186 | 194 | 202

187 | 198 | 204

191 | 199 |

(数字は本文の通し番号)

図版 13



205	211	225
206	216	227
210	223	

図版 1 4

大館市板沢

1 (神明社境内)

231 割石。高さ二二六cm、巾二一〇cm。

明治三十五年。信仰碑。陰刻。

日輪

(正面) 二十三夜

月輪

(裏面) 明治三十五年
寅二月吉日

232 割石。高さ一二五cm、巾四五cm。

慶応二年。信仰碑。陰刻。

(右側) 慶応二年
寅三月

日輪

(正面) 庚申

月輪

(左側)

七左工門
藤右工門
喜八

三右工門
清園
吉助

大館市赤石

1 (神明社境内)

233 安山岩、自然石。高さ八〇cm、巾六八cm。

天保十四年。信仰碑。陰刻。

日輪

(正面) 庚申

月輪

癸卯九月吉日

234 凝灰質、自然石。高さ二一〇cm、巾七五cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。(図版一五)

(正面) 太平山

235 凝灰質、自然石。高さ一一〇cm、巾五五cm。

明治□年。信仰碑。陰刻。

明園□年
月

(正面) 田代山

願主 平泉 助太郎

大館市櫃崎

1 (神明社境内)

236 自然石。高さ六六cm、巾五七cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。(図版一五)

〔正面〕 庚 申

237 鉄石英？、造形。高さ五五cm、巾三二cm。

安永四年。信仰碑。陰刻（一部浮彫り）。〔図版一五〕

〔右側〕 安永四年

日輪

〔正面〕 南無庚申尊天

月輪

〔左側〕 未九月吉日

〔備考〕 (〇)は梵字の文首記号に似ているが？

238 凝灰質、自然石。高さ一八三cm、巾一一〇cm。

明治十七年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太平山

〔裏面〕

明治十七年 石工 大披村
六月 武田 米松

239 凝灰質、造形。高さ一一〇cm、巾四〇cm。

年号なし。金精様。〔図版一五〕

大館市高戸谷

1 (八幡神社境内)

240 流紋岩、割石。高さ一〇〇cm、巾一三〇cm。

明治十七年。信仰碑。陰刻。

〔正面〕 太平山

〔裏面〕

明治十七年
甲申三月十七日

241 泥岩、板状。高さ七七cm、巾四六cm。

文化八年。信仰碑。陰刻。

〔右側〕 文化八年

〔正面〕 庚申塔 講中

十月十日五日

大館市下四ノ羽出

1

242 流紋岩、自然石。高さ一〇〇cm、巾六〇cm。

安政二年。信仰碑。陰刻。〔図版一五〕

日輪 安政二年

庚申 講中

月輪 乙卯二月日 祭主 三光院

〔左側〕 石 奇 進 田 畑 勘 太 良

願主 小 畑 五 良 蔵

同 同 惣 八

同 同 太 良 吉

同 同 惣 十 良

同 同 太 左 エ 門

米 沢 太 兵 衛

小 畑 留 兵 衛

同 同 太 之 助

同 同 傳 右 エ 門

〔裏面〕

〔備考〕

（現在も講中があり、主として作神として祀っているという。）

大館市上四ノ羽出

1

243 流紋岩、自然石。高さ六八cm、巾五〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

庚 申

244 凝灰質、自然石。高さ九八cm、巾四八cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。〔図版一五〕

〔正面〕

庚 申

245 凝灰角礫岩。高さ二二五cm、巾二五〇cm。

2

年号不明。信仰碑。陰刻。

〔正面〕

三 吉 神 社

九月六日

〔備考〕

（以前に見たとき正面右側に、明治とあったと記憶しているが、欠損がひどく不明である。）

3

〔稻荷神社境内〕

246 凝灰角礫岩、割石。高さ一五三cm、巾一二五cm。

文政二年。信仰碑。陰刻。〔図版一五〕

〔正面〕

（梵字）
アインク

八 聖 山

湯 殿 山

羽 黒 山

〔裏面〕

村中安全

文政二年

己卯十一月八日

五穀成就

建立

小畑

247 凝灰角礫岩、自然石。高さ一五八cm、巾一一五cm。

年号不明。信仰碑。陰刻。

九月

村講中

〔正面〕

山 神 社

神 社

神 社

大館市二井田

1 (八幡神社境内)

248 凝灰質、造形。高さ一〇三cm (上部のみ)。

安政二年。狛犬。

[右側]

千時
安政
三年
丙辰
六月
吉日
納

[左側]

奉
安
達
氏

249

流紋岩、割石。高さ一六七cm、巾一三〇cm。

明治三年。信仰碑。陰刻。

(細い字で書かれた文あり)

[正面]

稻荷神社

琴毘羅神社

明治三年神職

午十月 伊藤 門

一ノ関良右衛門

孝 則

信者

正吉建之

(乙吉かも知れない)

250

流紋岩、自然石。高さ二五〇cm、巾一五〇cm。

年号不明。信仰碑。陰刻。

[正面]

唐松神社

2 (温泉寺境内)

251 凝灰質、造形。高さ二六〇cm、巾三二cm。

宝暦二年。信仰碑。陰刻。三界萬霊塔。(図版一六)

[右側]

茲時宝暦二壬申天

[正面]

三界萬霊等回向

[左側]

當寺九世延牛大廻圖

[裏面]

二月十五日

細田屋 石兵衛
中沢 長兵衛

3 (高村)

252 流紋岩、割石。高さ二八〇cm、巾一〇〇cm。

明治十六年。信仰碑。陰刻。

[正面]

金山神社

明治十六年

講中安全

(備考)

(考察で詳しく述べるが、前出している「八聖山」が、正しくは、「八聖山金山稻荷神社」というのだが、この碑と関連があると思われる。)

253

流紋岩、割石。高さ一七〇cm、巾七四cm。

明治六年。信仰碑。陰刻。

256 流紋岩、割石。高さ一六〇cm、巾七五cm。

安政六年。信仰碑。陰刻。(図版一六)

(正面) カーン 三日 月

(裏面) 安政六己未四月吉日 安達氏

石戸谷	七之助	安達	太良七
小畑	虎之助	伊藤	太良五
近藤	己之松	一ノ関	利兵衛
安達	孫兵衛	近藤	市十良
小島	三郎	一ノ関	文之園
伊藤	丑之助	荒谷	仁兵衛
伊藤	喜兵衛	近藤	仁兵衛
伊藤	清四郎	伊藤	仁兵衛
石戸谷	三助	松田	与兵衛
安達	作十郎	伊藤	助四良
石戸谷	市助	松田	助四良
石戸谷	市助	伊藤	太良

254 流紋岩、割石。高さ二四〇cm、巾九〇cm。

安政六年。信仰碑。陰刻。(図版一六)

4 (二エの里)

安政六己未四月吉日

(正面) 青麻大権現

安達氏

(備考)

(岩手県紫波町赤沢に、中風予防の神様と言われている「青麻神社」(あおそ)があるが、同一のものか?。この碑は外に扇田神明社に「キヤ(梵字)・青麻大権現」嘉永六年と、日吉神社に一基ある。昭和四十六年・第一法規森口多里著「日本の民俗」第二巻「岩手」)

255 流紋岩、割石。高さ二二〇cm、巾一〇五cm。

安政六年。信仰碑。陰刻。(図版一六)

(正面) サク 廿三 夜

(梵字)

安政六己未四月吉日

安達氏

257 流紋岩、自然石。高さ一一五cm、巾五五cm。

嘉永六年。信仰碑。陰刻。

(正面) 金毘羅大権現

(裏面) 千時嘉永六年 戊巳八月

258 流紋岩、自然石。高さ一四〇cm、巾一二〇cm。

年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 九頭龍大権現

安達 長之助

(備考)

(254) 258は同一の地点にあり、何れも碑面に安達氏と刻字されているが、最近では同氏宅では祀っておらず、付近の安藤義雄氏宅外二・三軒で祀っているという。また「以前は「土用の入り」になれば碑を塩水で洗った」と安藤氏宅で伺った。

大館市達子森

1 (山頂の薬師神社)

259 流紋岩、自然石。高さ一五〇cm、巾二二五cm。
年号不明。信仰碑。陰刻。

(正面) 太平山

260 安山岩、造形。高さ一三〇cm。
文久四年。狛犬。

(右側)

文久四年 癸子 七月 奉

(左側)

納 両村 若者 講中
世 久之助 三吉 助
話 佐助 五郎
人 五郎

261 流紋岩、割石。高さ一二六cm、巾三五cm。
承応四年。信仰碑。陰刻(蓮座のみ浮彫り)。(図版一六)

(正面)

(梵字) バイ

ユウンシチヨクライ

蓮座

千時□應四年乙未

長谷川 三良兵衛

(備考)

(年号の所で折れているので不明確ではあるが、「応」の付く乙未の年といえは「承応」にあり、明暦元年と重なる。また、正面の梵字は七仏業師を表わしているのか、その中の業師瑠璃光如来を表わしているのか、調査者の持つ資料では解することが出来なかつた。ご笑賢の上、ご教示下されば幸いです。)

262 自然石(流紋岩質安山岩?) 高さ一二〇cm、巾九五cm。
年号不明。信仰碑。陰刻。

(達子森中腹)

(正面) 太平山

講中安全

大館市本宮

1 (開拓地)

263 凝灰質、造形。高さ一一五cm、巾四三cm。
元文五年。青面金剛童子。(図版一六)

(裏面)

元文五年 九月十日 富沢 同

(備考)

(凝灰質のために拓本を取ってもほとんど不明確である。また、次の碑と共に、以前本宮から移転されたものだろうである。)

264 凝灰質、造形。高さ一一三cm、巾二三cm。
年号不明。信仰碑。

年号不明。信仰碑。

2 (本宮熊野神社)

265 流紋岩、自然石。高さ八五cm、巾四〇cm。
年号なし。信仰碑。陰刻。

年号なし。信仰碑。陰刻。

(正面) 八聖山

(備考) (この碑の字体は、八聖山神社の印章を模したと思われる。)

大館市比内前田

1

266 流紋岩、自然石。高さ一二五cm、巾九〇cm。

安政四年。信仰碑。陰刻。

日輪 安政四年

(正面) 庚 申

月輪

与五郎
与十郎
小十郎
嘉七

(備考) (無銘碑も数基あり、庚申堂の中にも小さな庚申塔がある。)

大館市杉沢

1

(南方約一キロの雑木山々頂)

267 安山岩、自然石。高さ一二五cm、巾一〇〇cm。

明治十五年。信仰碑。陰刻。(図版一六)

(正面) 太 平 山
三 吉

(左側) 明治十五年
壬午五月十七日

(裏面) 一村
安 全

2 (薬師位)

268 流紋岩、割石。高さ一一〇cm、巾七〇cm。
年号なし。信仰碑。

(備考)

(土地の人の話では薬師様だそうで、十年程前に以前からあった石が風化したため、新しく立てたという。)

大館市羽立

1

(大披・大子内間)

269 自然石。高さ二二〇cm、巾二二〇cm。

明治三十年。信仰碑。陰刻。(図版一六)

(正面) 太 平 山

明治三十年
四月十七日建之

大館市大披

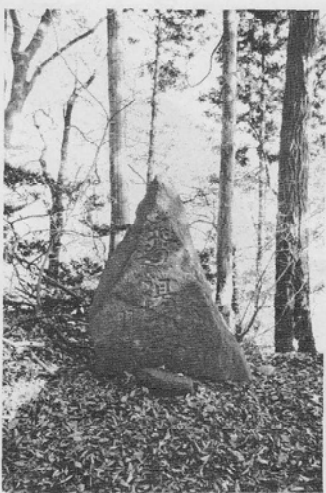
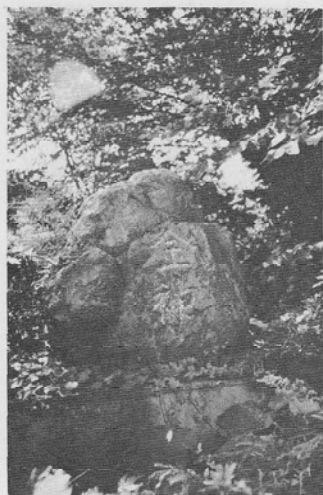
1

270 凝灰質、割石。高さ一五三cm、巾七五cm。

明治十九年。信仰碑。陰刻。

(正面) 太 平 山

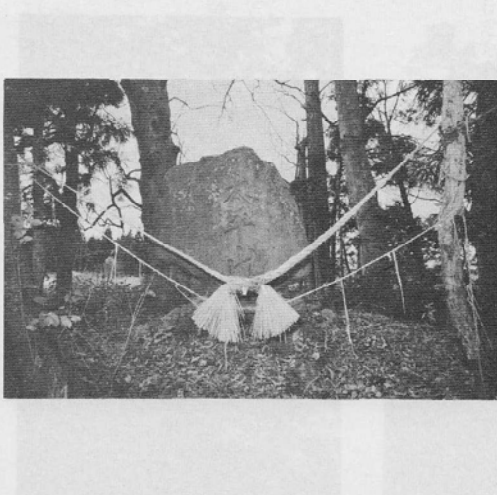
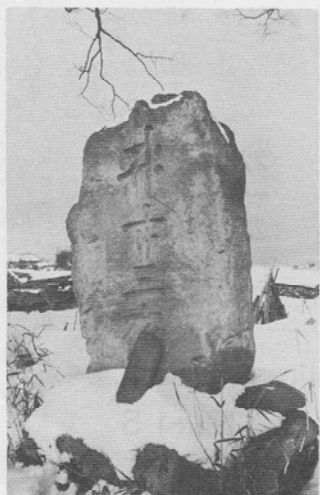
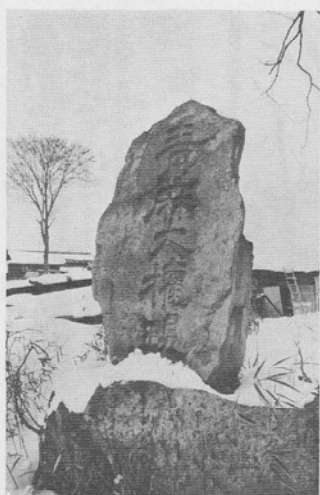
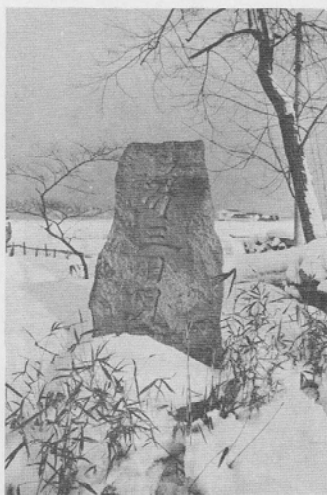
(裏面) 明治十九丙戌年
村石工 武田米松



229	237	244
234	239	246
236	242	

(数字は本文の通し番号)

図版 15



251	256	263
254	261	267
255	269	

図版 16

考 察

A 「板碑」について

一般に石造紀年物の調査と言えば、「板碑」「五輪塔」「宝篋印塔」などに代表され、それも、鎌倉～南北朝～室町～安土桃山時代の、いわゆる古いものが対象となっているようである。

秋田県史（昭和三十五年・秋田県）の考古編によれば、県内における「板碑」の総数は、二七七基と報告されている。しかし、北秋田・鹿角の両地区における報告は、僅かに一基が報告されているにすぎない（合川町川井・延慶二年碑）。但し、調査者は未見であるが、鹿角市八幡平字宮川長牛に、一二九九年―正安元年の銘のある、県内最古の板碑があるらしい。

このように、過去の調査では、当大館地区では一基の発見例もない訳で、当然今回の調査でも発見するべく努めたのだが、結果としてはご覧の通りで、いわゆる「板碑」は無く、僅かに25のような板碑らしいものと、75・88・96・97・261のような、江戸時代初期の「板碑」的な要素を持った、数例の紀年碑があったにすぎず、最古の88の墓碑も、寛永十三年・一六三六年と、江戸時代を遡ることはなく、文献資料と同様に、佐竹氏移封以前の事となると不明なのである。

以上のことから調査者は、「板碑」について、次のような推論をしてみた。

① これまで発掘調査した中世の館は、その何れも深く土中に埋没している。当然「板碑」についても言えると思う。この点で、昨夏（昭和

四十八年・八月）市史編さん委員会で発掘した、「矢立廢寺」に期待したのだが、発見には至らなかった。しかし、中世の館跡と考えられる地点は、これまでに多数確認されているので、今後の発掘調査に期待される。

② 文献等から見れば、南北朝～浅利氏没落の戦国時代末期まで、約三百年の間は常に争乱の中にあつたことが窺え、経済・政治・信仰面の何れについても、その基盤は不安定であつたと思われ、「板碑」等の建立はなかつたのではなからうか？。しかし、「大日堂」の仏像等を考え合わせると、この仮定は成立しないようだ。

以上の点から、「板碑」については、今後発見の可能性は十分にあり、比内町の調査及び古社寺の確認も必要視されてくる。（このことは他の民間信仰碑についても、比較・対象の点で言える。また、調査者は比内町についても大概巡回しているが、「板碑」に関しては未見である。）

B 民間信仰碑について

総 論

譜に付けた地図で判かるように、村と村を繋ぐ旧道の出入口や、神社の境内には必ずと言ってよいほどに、何らかの民間信仰碑がある。そして、それらの大半は人々の目から忘れられつつあり、風雪に苔産している。

今回の調査で確認した民間信仰碑を、種別及び年代別に分類すると、別表第五図のようになり、そのうち圧倒多数が、江戸末期から明治にかけてのものであり、その中でも「庚申」に關した碑が大半を占め、その他のものにしても、何れも講を中心としたものであることが判かる。そ

して、それらの普及状態については、県内及び他県においても、この種の調査報告例が少ないので、数量的比較は出来ないが、一般的に見て他の地方より遅いようである。このことについては「庚申」に窺える。つまり、他の地方においては「青面金剛童子像」で最盛期を迎え、文字碑で衰退しているのが、当地においては「青面金剛童子像」は僅か数例しかなく、文字碑で最盛期を迎えている点で明らかである。（鷹巣・阿仁地方には「青面金剛童子像」が多く、文字碑は少ない）

また、この分類表で気付いたのだが、「出羽三山碑」の無くなった頃から、地元「太平山」「田代山」等の碑が増えていることも注目される。

尚、表にも掲げている（梵字）を伴った民間信仰碑の問題であるが、これは前出の「板碑」と関連があると思われるのだが、これについて調査者は、十分な報告例を見聞したことがなく、詳しい考察が出来ずに、今後の課題とした。

次項より各種別ごとに、簡単な考察を加えるが、それぞれの信仰については、諸文献に網羅されているので、詳しい考察はここでは省略する。

1 庚申に関する碑

総論で述べたように、今回、調査の民間信仰碑のうちでも、この「庚申」に関した碑が一番多いのであるが、その中でも単に「庚申」「庚申塔」と刻字した文字碑が殆んどで、次いで「猿田彦」「猿田彦大神」といった神道上の碑、そして、僅かに二例であるが、仏教上の「青面金剛童子像」となる。

庚申が一般庶民の間に浸透した江戸時代初期は、「青面金剛童子像」

がその主流であり、関東地方ではこの時期に最盛を迎えている。次いで中期～末期～明治以降と、文字碑が主流となるのであるが、東北ではこの文字碑の頃に最盛期を迎え、当地においては江戸末期の、天保～安政の間でピークを迎えている。尚、最古のものは²⁶³「青面金剛童子像」の元文五年で、総論で述べたが、鷹巣・阿仁地区との繋がりを知る上で、貴重な資料である。（比内町に三例あり）

また、日輪・月輪の付された碑は三十四基を数え、梵字（種子）を付した碑も十五基あり、その内訳は（第五図参照）「ウーン」八基、「バン」三基、「イ」四基で、「バン」及び「バイ」は総て十二所地区にあり、「ウーン」は市内に集中している。これは、先達の修験等の違いがあるのだろうか？（鹿角市には「アインク」を刻字した碑が数基見られる。）

講中に関しては、市内地区は殆んど消滅しているようだが、今回の調査で最も多くの庚申碑のあった葛原（十二所地区）では、現在も三組くらい講中があり、宿を決めて庚申日の都度行なっているそうだが、今では庚申本来の姿からは離れてきたようである。（三十三回目の庚申日には、山の庚申碑にお参りするそうである。）

また、二井田地区の下四ノ羽出の庚申も、現在では作神として祀っていると伺ったことからして、その形体は大幅に変わり、他の信仰碑の講中等も同様に、一種のレクリエーションとされているようだ。

尚、この庚申関係碑に、「鐘植」（疱瘡神）を入れたのであるが、道祖神、戈ノ神といった方向で考えれば、同種のものと思われる。（鐘植については、十二所地区別所の出入口に祀られており、他の地区のワラ作りの道祖神と共に、後日筆を改めて報告したい。）

2 二十三夜等月待関係碑

この月待にも神道上の「月読命」、仏教上の「勢至菩薩」に分かれており、一般に二十三夜様は、庚申様の弟であるという。この月待も江戸末期と明治にかけて、その最盛期を迎えており、最古のものは、松峯稻荷神社の27、文政五年である。

また、日輪・月輪を付したものは五基で、梵字（種子）を付したものは八基あり、その内訳は、〃サク〃七基、〃カーン〃一基である。

尚、碑名は「二十三夜」がその殆んどを占め、「三日月」が三基と、「月読命」が二基であった。（三日月に一基、〃カーン〃不動明王〃の種子を付したものがあつたのが注目された。）

3 出羽三山碑

出羽三山碑は言う迄もなく、山形県に在る「月山・湯殿山・羽黒山」の三山信仰であるが、中には稀に「鳥海山・羽黒山・八聖山」（鹿角市十和田松山）「羽黒山・湯殿山・八聖山」（大館市上四ノ羽出）のような碑もある。

三山信仰は羽黒修験に代表され、熊野信仰と共に古くから信仰勢力を持ち、当地にも真為はともかく、松峯山（大山）に、寛平三年（八九一年）「月山大権現」の額を贈られたこと、鹿角市十和田の「月山神社」（秋田叢書・鹿角根元記に詳しい）北秋田郡田代町柏木の「月山神社」など、年代に大きな錯誤があるにしろ、古くから信仰があつたことは事実であろう。このことについては、正平九年（一二五四年）の「沙弥浄光護状」（新渡戸文書）に、比内重内郡等の中に「熊野の御神田」先

達の田”などに窺える。

今回の調査で確認した碑は六基であるが、その総てに梵字（種子）〃アーンク〃が付されており、最古の碑は23の明和七年（一七七〇年）で、何れも「湯殿山」を中心、又は単独で祀っている（現在は、月山の月読命が主祭神となり、羽黒山は出羽神社となり、湯殿山は幾分影が薄いようだ）。

4 金毘羅信仰に関する碑

金毘羅信仰は、香川県仲多度郡琴平町の「金毘羅大権現」を崇敬する信仰で、仏教の神で、龍王の意味であり、一般に、航海の安全を守る神、豊漁の神、農神、水神として信仰された（当地では主に、農神、水神として祀られたものと思われる）。

最古の碑は109の神明社境内の、文政十一年の碑で、その殆んどが江戸末期に集中しており、明治に入り減少している。また、梵字（種子）を付したものは二基あり、何れも〃カーン〃不動明王である。

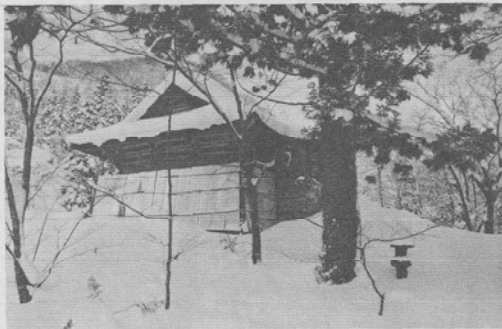
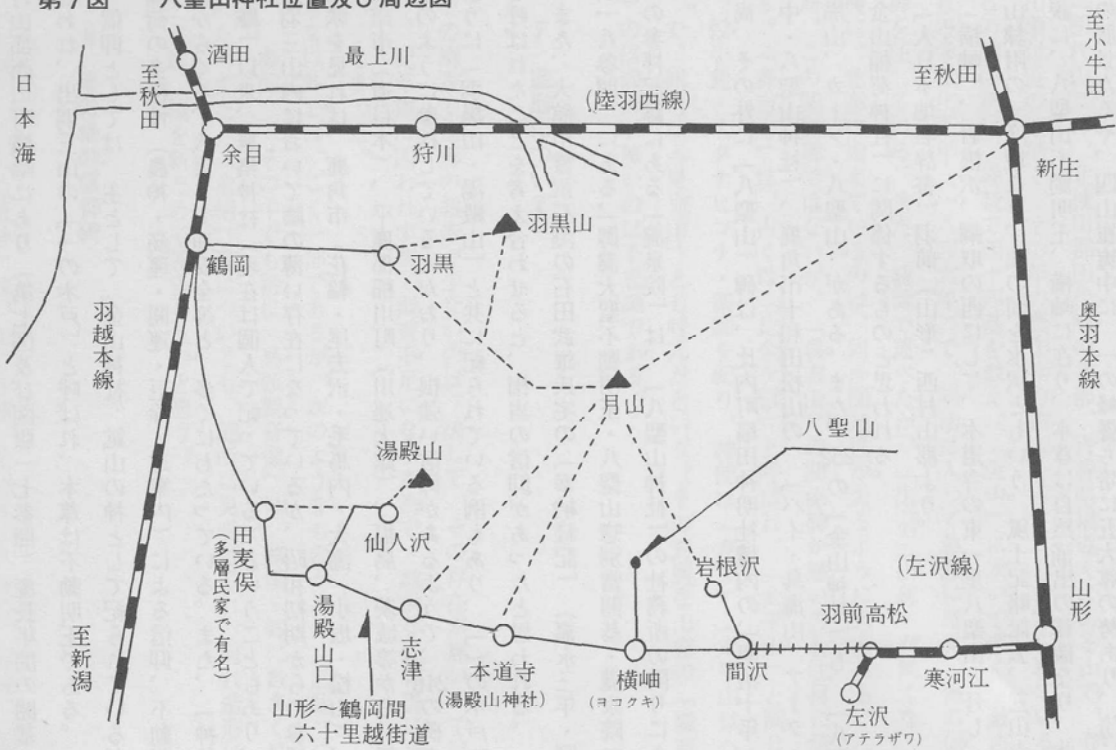
尚、本文中の備考で紹介したが、258の「九頭龍大権現」について伺った、「土用の入りに、碑を塩水で洗う」ということは、単に洗淨だけの意味であろうか？。

5 八聖山について

この碑については、文献等に見られないのであるが、調査者が調べた範囲で報告する。

「八聖山」とは、正しくは「八聖山金山稻荷神社」と言い、山形県西

第7図 八聖山神社位置及び周辺図



図版 17

1	2
3	4

- 1. 八聖山入口
- 2. 手前龍泉院, 奥八聖山
- 3・4. 八聖山神社

村山郡西川町横岫にあり（第七図及び図版一七参照）慶長年間の開基と言われ、出羽三山の「一の木戸」と呼ばれ、本尊は不動明王である。

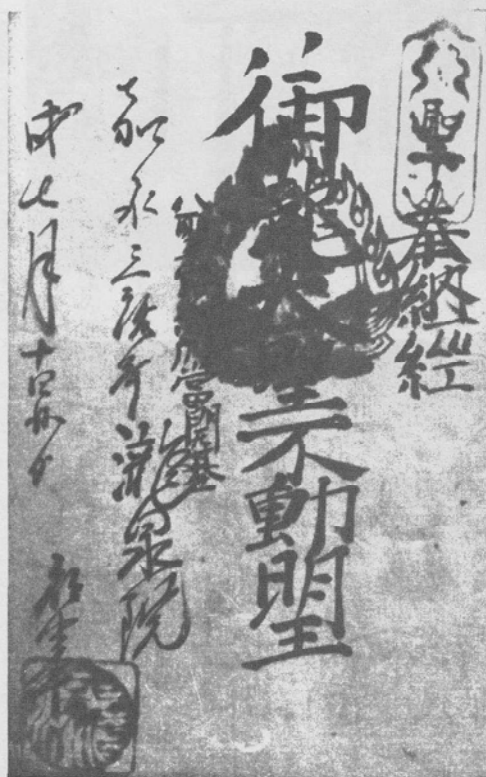
信仰としては、主として「金山神社」鉾山の神として祀られているが、稲荷の多種性（農神・商運・開運・厄除・道案内）による信仰、不動明王からくる、火災・交通安全等と、多くにわたっている。また、「神仏分離」以来、無格神社（現在は個人で祀っている）ということもあり、出羽三山内において陰の薄い存在になっているが、昭和初期からの参拝記帳を見れば、鹿角市（花輪・尾去沢・毛馬内・大湯・小坂・松山）、大館市（道目木）、平鹿郡稲川町（川連大館）、福島、茨城等から、毎年のように参拝している人がおり、根強い信仰があるようで、246の碑のように「羽黒山・湯殿山」と共に祀られている例もあり、「一の木戸」と呼ばれたことを考え合わせると、相当の信仰があったと思われる。

また、大館市雪沢石渕の石田武雄氏宅の「奉納経記」（嘉永三年・図版一八参照）にある、「御瀧大聖不動明王・八聖山惣別當開基・瀧泉院」、この参拝記録にある「瀧泉院」は、「八聖山神社」の社務所の隣りにある。

尚、その外に「八聖山」碑は、比内町扇田神明社境内の、「明治十年・講中・八聖山神社」、鹿角市十和田松山の、「バイ・鳥海山、アーク・羽黒山、カーン・八聖山」がある。また、252の「金山神社」も、「八聖山金山稲荷神社」に関係するものと思われる。

「大日本地名辞書」羽前（山形）西村山郡より。

「横岫」、岩根沢、綱取の西にして、本道寺の東一里八聖山と号し、三山隸附の一浄境なり、此の間を水沢ともいふ。風土記略記云、三山寺家説に、八聖山不動明王、横岫に在り、本尊は自然涌出の尊像なり、此山の勝景たるや、四山崔嵬中に、一の峰聳ち暗に五大尊の勢あり、傍に



八丘ありて、八大童の羅列に表わす、又、百尺の瀑布山頂より落ち、一帯の溪流北より来る、其源は湯殿山より当岳に横たう、故に横岫という、八大金剛垂跡の霊地なるが故に、八聖山と号す、或は八峰なるをもって八葉という、是れ即ち利物の方便なり云々。

6 太平山・三吉・田代山

「太平山（大平山）」「三吉」は、何れも「太平山三吉神社」の信仰で、勝負の神・好運の神として知られ、薬師如来を本地仏とし、山岳信岳信仰の山としても知られている（役小角・スタナヒコナも祀っている）。また、「三吉」については、その名の謂れは不明で、菅江真澄の「山鬼人・山鬼神」説、落人伝説等がある。

「田代山」は、北秋田郡田代町の北部、青森県境近くにある山で、春に山頂付近の池塘で、その年の農作物の吉凶を占うことで知られている。この関係碑は、総数で四十四基を数え、「庚申」に次いで多く、最古のもので弘化三年（一八四六年）で、明治に入って急激に増え、他の信仰碑を圧している。また、総論で述べたが、「出羽三山碑」が無くなった後に、急激に増えているのは、何か関連性があるように思われる。

尚、この関係碑ではないが、「森吉山」の関係碑が無いのも注目値する。「森吉山」は、古くは「比企ヶ嶽」と呼ばれ、「太平山」と同じく、役小角・スクナヒコナ・薬師を祀り、神使は「ガマ」（太平山はへじ）で、樵人は「見當山」とも呼んだという。その秀麗な山容の「森吉山」の信仰碑が無いのは不思議である。

7 造形について

この調査で造形の報告が少ないのは、決して、その存在が無いのではなく、紀年物に囚われすぎ、調査不足になった為で、数少ない報告に止まってしまった。

本文以外では、ごく一部であるが、次のようなものがあり（図版二〇・二一参照）、その中でも特に「馬頭観音像」は、路端・祠に数多く見られた。また、「金精」等についても、随所に見受けられ、何れ造形に關しては、稿を新ためて報告したいと思う。

8 その他の信仰碑

「山神社」「大山祇神」は、山で作業、生活する人々の、日常に職場

などで祀られているもので、山岳信仰とは異なる。調査では、「山神社」三基、「大山祇神」三基であるが、祠・無銘碑などに祀られているものもあり、その数は増えるものと思われる。

「馬頭観音」は、調査した碑は四基にすぎないが、「造形」で述べたように、祠で祀られたもの、神社に祀られているもの等を集合すれば、相当数に至るものと思われる。尚、梵字（種子）を付した碑が二基あり、何れも「ウーン」である。

「白峯宮」は、恐らく「白山」信仰と思われるが、詳しくは不明である。碑は二基あり、何れも大館神明社の境内にあり、江戸末期のものである。

「椿神社」は二基あり、何れも神明社境内で、江戸末期のものであるが、その詳しい信仰は不明である（樹木の信仰と思われる——比叡山西塔椿院に、聖徳太子のさした、杖にしていた椿が、大きくなったという話がある）。

「青麻岩戸三光宮」は、アマノイワトと読めることから、「天照大神」の信仰と思われるが、その詳しい信仰については不明で、二基何れも神明社境内にある。

その外に、「土公神」「金神」「天満大自在天神」「豊受姫大神」「聖徳太子」等、本文中の備考で説明したもの、「古四王神社」「稲荷・八幡」等著名なものについては省略する。

「無銘碑」については、図版二一・二二のような碑があるが、ここに紹介したのはごく一部であり、その信仰の聞き込みも、十分には行なうことが出来ず、写真報告に止めておくが、民族（俗）学においては、実はこれら「無銘碑」が信仰としては古く、重要なものと思われる。

また、この調査で一基の発見もなかった、津軽地方に数多く見られる



「百万遍碑」であるが、信仰の違いだろうか？（碑はなくても信仰はあるようだ）、調査中に確認出来たのは、区域外の鹿角市土深井の一基だけであった。（図版一九）

文化三年

（梵字）

ア

南無阿弥陀佛
百万返俱養

當村女連中

寅三月田圃日

尚、2の「南無妙法蓮華經」の碑であるが、長面袋にも一基あり、この碑について、同村の佐々木治三郎氏より伺ったところ、「中羽立に住む神様（祈禱師）に告げられて、水神様として祀った」ということで、今から五・六年前のことだそう。

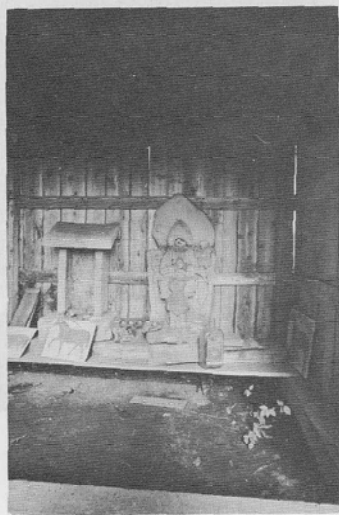
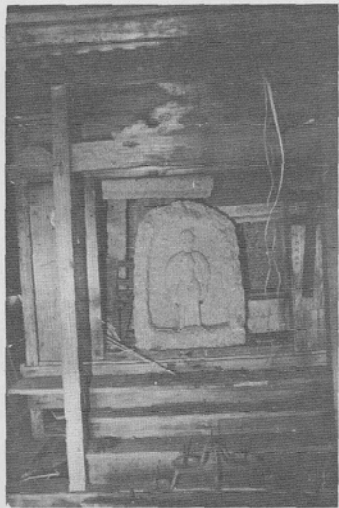
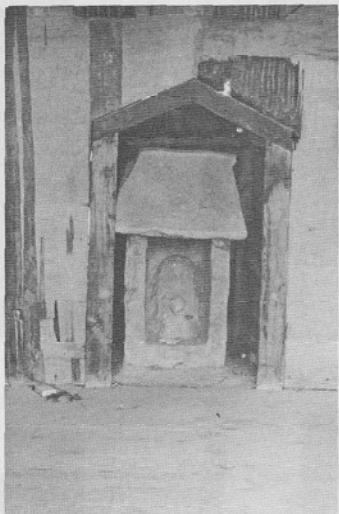
C 総括

全般的に「古碑」「民間信仰碑」「造形」、何れも数量は少なかつたが、他に見られない碑もあり、また、その反面ないものもあつた。そして、講中の調査、板碑・無銘碑の調査等、残された課題もあり、大館を知る上で、隣接地区との比較も必要で、最小限、比内町等の隣接町村の調査も必要視される。

この調査を始めた際、旧道上に一定の間隔で在る信仰碑と、一里塚との関連性を仮説としたのであるが（「火内」創刊号）、これといった確証を得ないままに終つた。しかし、一里塚と考えられる箇所を、数ヶ所確認しているので、「火内」の誌上で報告したい。

また、石質については、その殆んどが流紋岩であるが、いわゆる石英粗面岩、流状の流紋岩、安山岩質等、色々の種類があり、その何れも大館地区の「岩神山・二ツ山・達子森・長走風穴」等から、容易に手に入る石を使っている。また、古いものについては花崗岩が多く、他からの輸入品と思われる。

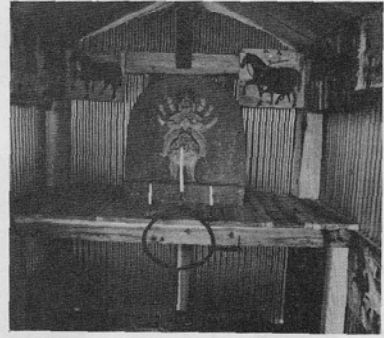
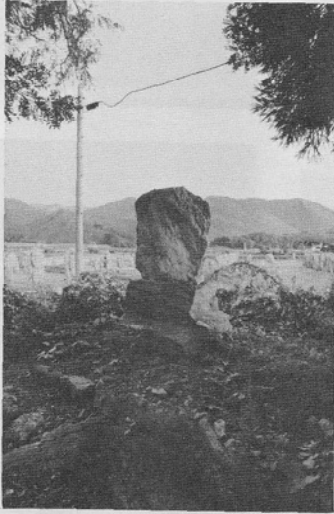
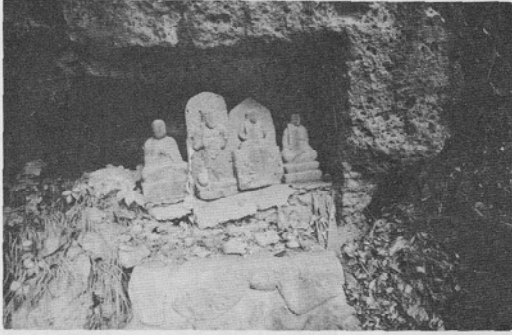
また、花岡・曲田淡島・軽井沢等一部調査不備の地点もあり、残された課題と共に消化したい。



1	4	7
2	5	8
3	6	

1. 粕田 (宝歴11年)
2. 大山山中
3. 舟場
4. "
5. 餌釣
6. "
7. 長里 (天保3年)
8. 別所

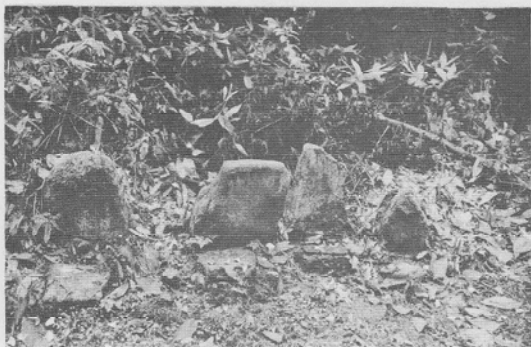
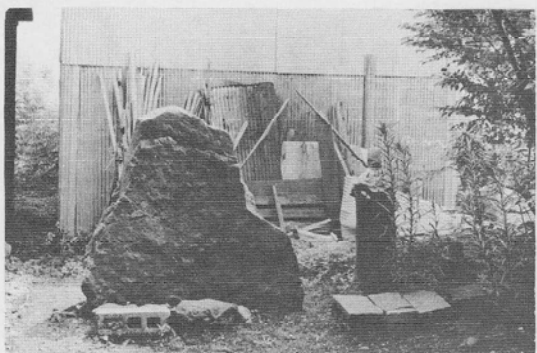
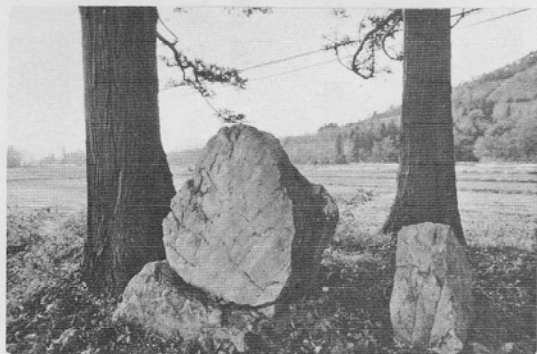
図版20



1	4
2	5
3	6

1. 別所一十二所間
2. 白沢
3. 愛宕神社
4. 舟場
5. 柄沢
6. 山館

図版21



1	4
2	5
3	6

1. 粕田一中羽立間
2. 大山山中
3. 上岱野村末
4. 小茂内入口
5. 猿間
6. 比内前田

図版 2 2

- 〔日本民俗事典〕 大塚民俗学会 弘文堂 昭和四十七・二月
- 〔日本の民俗3岩手〕 森口多里 第一法規 昭和四十六・十一月
- 〔津軽藩政時代に於ける生活と宗教〕 小館 衷三 津軽書房 昭和四十八・十月
- 〔みちのく庶民信仰〕 及川 大溪 国書刊行会 昭和四十八・四月
- 〔日本民間信仰論〕 榎井 徳太郎 弘文堂 昭和四十七・五月
- 〔秋田県史〕（考古編） 秋 田 県 吉川弘文館 昭和三十五・三月
- 〔大日本地名辞書〕 吉田 東伍 富山房
- 〔大館戊辰戦史〕（大館沿革史） 笹 嶋 定 治 名著出版 昭和四十八・十二月
- 〔近世古文書解読字典〕 林 英 夫 柏 書 房 昭和四十七・十月
- 〔梵 字 入 門〕 綜芸舎編集部 綜 芸 書 昭和四十六・六月
- 〔栗原郷土研究〕 栗原郡郷土史研究会 昭和四十七・十二月
- （江戸期の板碑考——迫町内を尋ねて—— 狩 野 義 章）
- 〔原色岩石図鑑〕 益 富 寿 之 助 保 育 社 昭和三十・七月
- 〔郷 村 史 略〕 大館市史編さん調査資料集 第四集
- 大館市史編さん委員会 石 垣 忠 吉 昭和四十七・三月
- 〔大日堂仏像他道標・遺跡〕 大館市史編さん調査資料集 第三集
- 昭和四十六・十一月

昭和四十四年・四十六年に行なわれた「東北縦貫自動車道遺跡分布調査」その途上で見かけた一定路線にある信仰碑、それを一里塚との関連と仮説立てして調査し、一里塚については確認出来ずに終わったが、その調査に付帯した「石造紀年物」の報告を、市史編さん資料集として報告出来る機会を得たことは、非常に幸運であり、脱稿後大館を離れる調査者としては、大館に少しばかりの恩返し出来た心地である。

調査を終えて、参考文献の少ないこと、各信仰を深く考察出来なかつたこと等、色々煩悶させられたが、この一連のフィールドワークを通して、調査者自身としては、これまでの考古学一辺倒から、幅広く「民族学」的方向を得たこと、フィールドワークの重要性を身を以って体験出来たことは大収穫であった。

尚、この小文をご笑覧の上、誤り・調査漏れなど、お気付きの点がありましたら、忌憚なくご教示いただけましたら幸いです。

未筆で失礼ながら、この調査報告に当たり、常に叱咤激励していただいた我師奥山潤先生、種々のご教示を下された市史編さん委員石垣忠吉先生、調査に同行・助言を下された学兄高橋昭悦氏、報告書作成に当たって尽力下さった大館孔版社、市史編さん室の担当者ご一同に厚く御礼を申し上げ、今後のご指導をお願いするものである。



大館市史編さん
調査資料 第十二集

石造紀年物調査報告書

調査者 小山 純 夫

昭和四十九年五月

大館市史編さん委員会

発行 大館市役所内

大館市史編さん資料

刊行会

印刷 大館市谷地町

(有) 大館孔版社